

静薬学友會報

静岡県立大学薬学部同窓会報
2025年（令和7年）No.93



白い花 藤井尚子（昭和40年卒）

特集 薬学×○○ 広がる可能性と新たな連携

ひとに優しい医療の実現を目指して

薬局フォーリア

Pharmacy Folia

全国どここの処方箋も受付いたします。

天王店 浜松市中央区天王町1742-2
TEL 053-462-3888

豊田店 磐田市立野509-1
TEL 0538-39-3080

国府台店 磐田市国府台11-1
TEL 0538-31-3161

**居宅介護支援事業所
ケアプランフォーリア**

浜松市中央区小池町 2661-3
Tel.053-533-9183

将監店 浜松市中央区将監町24-6
TEL 053-462-3313

元浜店 浜松市中央区元浜町301-3
TEL 053-412-6060

松城店 浜松市中央区松城町200-10
TEL 053-401-2177

中郡店 浜松市中央区中郡町393-2
TEL 053-431-0707

細江店 浜松市浜名区細江町中川7172-2620
TEL 053-527-2525

子安店 浜松市中央区子安町301-7
TEL 053-581-8833

訪問看護ステーション小池

浜松市中央区小池町 2661-3
Tel.053-401-6700

和合店 浜松市中央区和合北1-1-32
TEL 053-412-6886

入野店 浜松市中央区入野町8873-1
TEL 053-445-2515

瓜内店 浜松市中央区瓜内町832
TEL 053-444-3525

野口店 浜松市中央区野口町352
TEL 053-469-1313



<https://folia.jp/>



会員専用Webサービスのご案内

<http://shizuyaku.jp>

静薬学友会

検索



スマートフォンからも
ご利用いただけます。



Web名簿システム ログイン

画面右上の**マイページ**をクリックしてください。「会員ID/パスワード」を入力後、ログインをクリックしてください。

初回ログイン時には、メールアドレスと生年月日の登録が必要になります。

* ご自身のID/パスワードを確実に保管していただきますようお願いいたします。



パスワードを 忘れた方

万一、変更したパスワードを忘れてしまった場合は、画面の**パスワードを忘れた方**より、登録済のメールアドレスと生年月日で即時に再発行を受けることができます。

一度もログインしたことがない方で、パスワードがお分かりにならない場合は、事務局にお問い合わせください。パスワードを再発行いたします。



静薬学友会報電子化のお知らせ

静薬学友会報読者の皆様へ

会員の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、長らく冊子体にてお届けしてまいりました「静薬学友会報」につきまして、近年の輸送費高騰等により、経費の負担が大きくなっております。つきましては、今後は原則として電子版を作成し、電子メールにてお届けすることといたしました。

なお、従来どおり冊子体での送付をご希望の方におかれましては、本案内の下部にごございます葉書にてその旨お知らせくださいますようお願い申し上げます。

今後とも本会報が皆様の交流の一助となりますよう努めてまいりますので、引き続きご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

静薬学友会 会報編集委員会



差出有効期間
2026年3月31日まで

郵便はがき

4 2 2 8 7 9 0

(受取人)

静岡市駿河区谷田 52-1

静岡県立大学内

一般社団法人 静薬学友会 行



来年度以降も冊子体をご希望の方は、
裏面をご記入の上、
ポストにご投函ください。

切手は不要です。裏面をご記入後、
そのままポストにご投函ください。

静葉学友会報冊子体希望届

冊子体の郵送を希望します

下記をご記入の上、ご投函ください。

氏名	卒業年度
住所 □□□-□□□□	都道 府県
E-mail	
TEL: - -	

※こちらにお書きいただいた住所等の情報を web 名簿システムに反映いたします。

静薬学友会報

2025 No.93

目次

静薬学友会報電子化のお知らせ

学部長就任挨拶 吉 成 浩 一 2

会長挨拶 安 倍 道 治 3

特集「薬学×○○ 広がる可能性と新たな連携」

薬学×食品栄養科学×超長寿社会:広がる可能性と新たな連携 ... 伊 吹 裕 子 4

薬学とグローバル臨床開発-広がる可能性と新たな連携 ... 富 安 晃 一 5

薬学×行政-行政薬剤師としての新たな可能性- ... 天 野 祥 吾 6

薬学×挑戦:研究者として歩むキャリア ... 上 野 宏 大 7

薬学×海外キャリア~病院薬剤師からカナダへ~ ... 鈴 木 沙 英 8

地区同窓会だより

北海道地区 水 島 教 之 9

関東地区 中 村 和 重 10

静岡県地区 岡 野 幸 次 11

関西地区 松 田 通 明 12

中国地区 波 多 野 力 12

九州・沖縄地区 横 田 崇 13

薬学生涯研修講座報告 14

近藤基金支援者報告 ... 佐 藤 彩 乃 渡 邊 翠 15

室 谷 千 佳 川 瀬 裕 斗 16

前 島 澄 香 山 田 遥 17

石 田 光 稀 大 城 熙 18

会員だより

昭和37年卒(六回生)同期会 河 村 信 弘 19

静薬昭和45年卒同窓会 尾 阪 芳 孝 20

鬼怒川も穏やか也 ミニミニ同期会 溝 口 雅 子 21

日本平ホテルでの50周年記念パーティ ... 木 下 俊 也 22

小菅卓夫同門会クリスマスパーティーを開催しました ... 木 下 俊 也 23

第29回植物研究部OB会報告 馬 場 宏 行 24

静薬一〇期生同期会開催報告 森 田 俊 夫 25

大学だより

退職に際して 賀 川 義 之 26

森 本 達 也 27

新任挨拶 辻 大 樹 28

土 谷 正 樹 塚 本 庸 平 29

研究室だより

生化学分野 衛生分子毒性学分野 30

薬理学分野 医薬生命化学分野 31

身体運動科学分野 生体機能分子分析学分野 32

医薬品製造化学分野 生薬学分野 33

薬剤学分野 創剤科学分野 34

分子病態学分野 生体情報薬理学分野 35

臨床薬剤学分野 臨床薬効解析学分野 36

実践薬学分野 医薬品化学分野 37

生命物理化学分野 医薬品創製化学分野 38

統合生化学分野 免疫微生物学分野 39

創薬探索センター 薬学キャリアデザイン近藤寄附講座 40

令和7年春の叙勲 村松郁延様 41

薬学部の人事異動 41

薬学部教室名および教員一覧 42

令和6年度成績優秀者賞・岩崎賞受賞

篠 原 佑 奈 西 山 由 真 43

小 林 悠 人 神 田 亜 矢 加 44

在学生だより 小 池 悠 生 櫻 井 翔 45

本 間 帆 乃 果 廣 岡 聖 菜 46

本部だより

理事会報告・総会報告 47

決算報告書 49

各種お知らせ

最終講義のご案内 石川智久教授 伊藤邦彦教授 51

静薬学友会および関西地区同窓会共同主催のご案内 52

静岡県地区同窓会開催のお知らせ 53

中国地区同窓会総会オンライン開催のお知らせ 54

昭和46年卒同期会開催のお知らせ 55

昭和55年4月入学生及び昭和59年3月卒業生同級会開催のお知らせ ... 56

1995年3月卒業生卒後30年記念同窓会開催のお知らせ 57

編集後記・ご寄付のご報告/計報 58

正会員の皆様へ 会費納入のお願い 59

令和6年度卒業生会費納入者一覧 60

令和6年度会費納入者一覧 64

藤井尚子様を偲んで―表紙絵『白い花』とともに

昭和40年卒の藤井尚子様のご逝去に接し、謹んで哀悼の意を表します。

藤井様には、静薬学友会報の表紙絵として、今回を含めて通算4号にわたりご自身の油彩画をご提供いただきました。自然や季節の情景を穏やかに、時に力強く描いた作品は、誌面に深い趣と彩りを添えてくださいました。また、毎号ご寄稿いただいた解説文には、モチーフへのまなざしや制作時の想いが込められており、読者に作品の魅力をより深く伝えてくださいました。

今回の会報の表紙絵には、「白い花」と題した油彩画を選ばせていただきました。赤地の背景に緑の葉と白いバラが映える本作は、色彩の対比が鮮やかでありながら、どこか静けさとやさしさをたたえた印象を与えてくれます。その佇まいは、藤井様の作品に共通する、見る人の心に語りかける力を感じさせるものです。藤井様ご自身の画集のあとがきによれば、油絵との出会いは小学5年生の夏休みの宿題で、板に描いた「ひまわり」がその第1作であったとのこと。その後も絵筆を取り続けられ、二科展や東光展などにたびたび出品され、受賞歴も重ねられました。さらに個展の開催や海外展覧会への出品など、その創作活動は国内外に広がりを見せていました。薬学を学んだ後も自己探求を続け、絵画という表現手段に真摯に向き合い続けた藤井様の姿勢は、私たち卒業生にとっても深い示唆と励ましを与えてくれるものでした。

あらためて、これまでのご厚意とご協力に深く感謝申し上げますとともに、在りし日のお人柄とご功績を偲び、心よりご冥福をお祈りいたします。

会報編集委員長 佐藤秀行(平成20年卒)



2024年 No.92 「ヴェネチア」



2023年 No.91 「魚のある桌上」



2022年 No.90 「白い水差し」

学部長就任挨拶



薬学部長就任にあたって

静岡県立大学 薬学部長 吉成浩一

静薬学友会会員の皆様には、日頃より本学薬学部の研究活動にご支援いただき、厚く御礼申し上げます。令和7年4月より薬学部長を拝命いたしました衛生分子毒性学分野の吉成浩一です。伝統ある「静薬」の長として責任の重さを感じておりますが、教職員の皆様と力を合わせ、本学の発展に尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私は平成10年に東北大学大学院薬学研究科で学位を取得後、米国立環境衛生研究所にて薬物代謝酵素誘導に関する研究に従事しました。平成13年にご縁をいただき、本学薬学部臨床薬品学教室で三輪匡男先生のもと助手・講師として4年半勤務し、その後は母校の東北大学で講師・准教授を務めました。そして、平成26年に出川雅邦先生の後任として衛生分子毒性学分野の教授に就任いたしました。本学部の異なる研究室に二度着任するという少し変わった経歴を有し、教授としては11年ほどですが、本学部教員としては通算16年近くを過ごしています。研究とし

てはライフワークである薬物代謝酵素や異物応答性核内受容体に関する研究に加えて、肝毒性の機序解明や肝疾患予防の研究に従事しています。さらに、教授着任後に新たに始めた、インシリコ情報を活用した毒性予測評価手法や動物実験代替法の開発にも精力的に取り組んでいます。

大学運営に関しては、教授着任後、学生委員、広報委員、教務委員、入試実施委員などを務めました。学部長就任前の2年間は「薬学部自己点検・評価委員会」の委員長として教育の質保証に取り組み、本学薬学部について多くのことを学ぶ機会を得ました。この活動は薬学部における教育や研究の質の担保において非常に重要であり、私の任期中の課題の1つでもありますので、この場を借りて少しご紹介いたします。

薬学教育は平成18年に6年制が導入され、それに伴い6年制の薬学科を有する全国の薬学部は7年に一度、薬学教育評価機構による評価を受けることとなりました。この評価・点検項目は

多岐にわたり、教育理念・目的・教育目標の適切性、カリキュラムや教員組織・教育体制、学生の学修成果の評価、学生支援体制、研究環境、社会貢献、質保証体制（自己点検・自己改善のシステム）などが含まれます。本学も平成28年度と昨年度の2回評価を受け、いずれも「適合」と認められました。これにより、本学部の教育研究体制は一定の質を保っていることが客観的に示されました。なお、本学部が提出した自己点検・評価書や評価結果は、本学部や薬学教育評価機構のホームページでご覧いただけます。

もともと、改善すべき課題も指摘されています。特に「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」の達成度を客観的に評価する仕組みがまだ不十分であるとされました。これに関しては、卒業時および在学中の学生を対象に到達度アンケートを2年前に導入しており、卒業生では概ねディプロマ・ポリシーを達成していること、また、在校生では学年進行に伴う達成度の向上が確認されていることから、到達度自体には

問題はなく、学生の本学部の教育に対する満足度は比較的高いものと考えています。今後はさらに客観的評価を充実させるとともに、教育の質のさらなる向上を目指します。

少子化により大学進学者数が減少するなか、本学部の質の高さを保つには、優秀な学生の受け入れと優れた人材の輩出を継続することが必要です。そのため、薬学教育評価で受けた指摘を真摯に受け止め、教育研究体制をより一層充実させるとともに、それらを数値等で具体的に示し、データに基づいた広報を進めていくことが重要だと考えています。学部長に就任してから4ヶ月が過ぎ、会議の多さや業務の重さに圧倒され、じっくり考える時間が十分に取れていませんが、教職員一丸となってこれらの課題に取り組みたいと所存です。静薬学友会会員の皆様におかれましては、今後ともご理解、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

会長挨拶



ご挨拶

一般社団法人静薬学友会 会長 安倍道治

(昭和46年卒)

会員の皆様におかれましては、日頃、静薬学友会の活動に対して、ご理解とご支援をいただき厚くお礼申し上げます。また、役員の皆様をはじめ、代議員、地区代表の皆様方におかれましては、地区の活動や静薬学友会の運営にご尽力いただき、この場をお借りして感謝を申し上げます。

さて、静薬学友会は、2018年に一般社団法人化後、早くも今年で8年目を迎えることになりました。その間、2019年には、薬学キャリアデザイン近藤寄附講座を開設し、各界で活躍する卒業生の方々に講師にお招きし、最新の活動を紹介することにより、学生の将来の進路に対する早期の意識づけや薬学に対するモチベーションの醸

成を行うなどの学生支援を行ってまいす。さらには、2021年には、人材育成を通じて地域医療に貢献するため、

会員の有志による新たな組織づくりを行うなど大変チャレンジングな試みも行いました。前者については、賀川義之副学長をはじめ薬学部諸先生方のご支援のお陰で着実に実績を積み上げていくところですが、後者については、医療を取り巻く環境の著しい変化等により、組織の維持は厳しい状況にあることから、場合によっては、その存続を含め見直すこととなりました。まだまだ、法人としての実績は十分とは言えませんが、引き続き会の発展に努力していきたいと考えています。

部と関西地区(代表 松田通明様)が協力して行う事業として、「懇親とネットワーキングの集い12026大阪」を来年、3月29日に、新大阪ワシントンプラザで開催することにいたしましたので、ご紹介させていただきます。本集いは、日本薬学会第146年会(大阪)の開催に合わせ実施するもので、薬学会に参加される卒業生や薬学部の教職員の方、さらには、関西地区在住の会員の皆様の交流の機会として活用いただければと願っています。このような機会は、2年前に関東地区が主体となつて横浜で開催した、「懇親とネットワーキングの集い」が、大学関係者や卒業生の交流の場として大変盛会であったことから、今後も2年に1回程

度の頻度で継続して開催したく、合わせて、日本薬剤師会の学術大会などの開催の機会を利用して同様の集いを開催することも検討したいと思えます。

最後になりますが、静薬学友会は、会の発展にとどまらず、学生支援等を通じて薬学部の発展にも微力ながら貢献したく、会員の皆様におかれましては、今後とも静薬学友会の活動にご理解とご支援をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

特集

薬学×○○○ 広がる可能性と新たな連携



薬学×食品栄養科学×超長寿社会…広がる可能性と新たな連携

静岡県立大学食品栄養科学部・教授 伊吹裕子

(昭和63年卒)

私は薬学研究科博士前期課程を修了後、民間企業に勤務しましたが、ほどなくして大学に戻り、現在は食品栄養科学部環境生命科学科に所属し、薬学部と並列する建物（食品栄養科学部2号棟）で勤務しています。言い方は悪いですが、薬学部は「近くて遠い存在」であり、平行に並ぶ研究棟ながら、長年、特に関わることなく過ごしてきました。しかしここ数年、薬学部から審査会などの委員としてお声がけいただく機会が増え、先生方の研究内容を拝聴するうちに、「もっと薬学部の先生方と積極的に研究交流をしておけばよかった」と感じるようになりました。このたび原稿執筆の機会をいただいたこともあり、最近私が興味を持っている研究の一部から、これらからの薬学部と食品栄養科学部との連携、すなわち「薬食連携」による可能性の広がりについて考えてみたいと思います。

人生100年時代といわれる今日、健康で長生きするためには「老化」の制御が重要な鍵になると考えられています。私は長年、紫外線影響の研究を行ってきたため、「老化」というキーワードは切り離せない関心事です。食品栄養科学の分野では、ワインなどに含まれるポリフェノール「レスベラトロール」の抗老化効果は古くから知られており、マウスへの投与で栄養制限と同様に寿命延長効果が見られると報告されています。レスベラトロールの脱アセチル化酵素SIRT1活性化作用、また、抗酸化作用などが抗老化に寄与するとされています。

一方で、最近になって、老化細胞は炎症を誘発する、特定の条件下で再び増殖してがん化するなどの可能性が指摘されています。このため、老化細胞を除去する「セノリシス(Senolysis)」が注目されるようになりました。老化細胞特有の機能を阻害し、老化細胞のみを選択的に死滅させる方法の研究が進められ、いくつかの薬剤が開発されています。かつては「細胞を老化させない」ことが主眼でしたが、現在では「老化した細胞を取り除く」という発想が新たな潮流となつています。私はここに薬学と食品栄養科学の連携による新しい展開が期待されると感じています。食で老化を予防し、薬で老化細胞を除去する——この組み合わせこそが、これから迎える超長寿社会における老化制御の鍵となるかもしれません。老化という一つのキーワードで考えてみましたが、これからの社会の要請に

応じて、薬学と食品栄養科学の研究は、融合しながら発展できると感じています。私の研究室では、老化させた細胞を培養しています。老化細胞は通常の細胞とは異なる特徴を示し、その振る舞いにしばしば驚かされます。学生さんたちとは、「こちらがあなた達の細胞、そしてこちらが私の細胞(老化細胞)」と冗談を交えながら、紫外線照射によって全く異なる反応を示す様子を観察しています。そこでの私の口癖は、「年を取って嫌だわ〜」です。しかし、この細胞応答の違いこそが、私にとってには実に興味深く、研究の面白さを感じさせてくれます。研究室で過ごせる時間も限られてきましたが、若い人たちに負けず、もう少し頑張ってみようと思っています。

薬学とグローバル臨床開発——広がる可能性と新たな連携

Tanabe Pharma America, Inc.
Vice President, Global Development Office

富安 晃 一

(平成6年卒)

皆さん、こんにちは。私は1990

年に薬学部に入學し、4年次から薬剤学教室に所属、1996年に修士課程を修了しました。在学中はラグビー部に所属し、日々グラウンドで仲間と汗を流していました。学業と部活動の両立は簡単ではありませんでしたが、「仲間と共に前へ進む姿勢」を体得できたことは、今のキャリアにおいても大きな財産となっています。

修了後は製薬会社に就職し、臨床開発の分野に進みました。臨床開発は、医薬品を患者さんに届けるまでの非常に重要なプロセスであり、医療の未来を形づくる仕事です。2015年から2019年まではアメリカに駐在し、現在も再びアメリカで勤務しています。薬学の知識を基盤に、日々グローバルなチームと連携しながら、世界中の患者さんのために新たな治療法の実現を

目指しています。

現代の臨床開発は、もはや一国だけで完結するものではありません。研究者、CRO（開発業務受託機関）、規制当局、製造担当者、現場の医療従事者など、さまざまな国・専門分野の人たちの協力が不可欠です。異なる文化や価値観のもとで仕事をする中では、意見の衝突もあります。しかし、どの国の人にも共通しているのが、「患者さんのために最善の医療を届けたい」という強い想いです。この共通の目標があるからこそ、国境や立場を越えた連携が可能になり、多様な視点が融合することで新たなアイデアやブレイクスルーが生まれます。

アメリカでは、患者の声を医薬品開発の早い段階から取り入れる姿勢が制度として根づいています。臨床試験のデザインや承認プロセスにおいても柔

軟な対応が多く、スピード感があります。一方、日本は品質管理や安全性への取り組みにおいて非常に高い水準を誇っており、世界から信頼されています。このように、両国の強みを活かして補完し合うことで、より良い医療の形が見えてくるのです。

私がラグビーで学んだ「One Team」という考え方——それぞれの役割や個性を尊重しながら、一つの目標に向かってチーム全体で前進する姿勢——は、臨床開発の仕事でも非常に重要です。誰か一人の力では達成できないからこそ、互いを信じ、支え合いながら進んでいく。その中で育まれる信頼関係と情熱こそが、患者さんの未来を切り拓く大きな力になるのだと実感しています。これからも私は、日本と世界をつなぐ「橋渡し役」として、これまでの経験と知識を活かしていきたいと考えて





薬学×行政 ―行政薬剤師としての新たな可能性―

静岡県庁 暮らし・環境部 環境局 廃棄物リサイクル課 主査 天野 祥 吾

(平成20年卒)

私は2010年に静岡県立大学大学院を修了し、静岡県の行政薬剤師として入庁しました。今年で16年目となります。今回は、私が経験してきた静岡県の行政薬剤師の業務を紹介することで、皆様が新たな可能性について考えるきっかけになればと思います。

最初の6年間は、沼津工業技術支援センターに勤務しました。ここは、研究開発や相談等を通じて地域産業を支援する研究所です。私はバイオ科に配属となり、発酵・醸造分野、特に清酒業界の支援を行いました。静岡県は、業界では「吟醸王国」と呼ばれるほどの銘醸地です。静岡の清酒は、昭和61年の全国新酒鑑評会にて静岡の清酒が金賞を多数受賞したことで注目されるようになりましたが、これは沼津工業技術支援センターにて開発された「静岡酵母」という県オリジナル清酒酵母とそれを活かした酒造りが発展したことによります。吟醸香の一つである「酢酸イソアミル」の香りが高くスッキリした味わいの清酒は、「静岡型吟醸」と

呼ばれ高く評価されています。ここでは業界支援として、静岡酵母の管理や新たな清酒酵母の開発、清酒の品質評価等を行いました。酵母開発においては、河津桜から分離した酵母が実際に県内醸造所で使用されています。品質評価では、官能評価(利き酒)により酒質を確認し、醸造指導を行います。全くの素人だった自分でしたが、ここでの醸造に関する知識の習得や経験の積み重ねにより、清酒専門評価者の認定を受けるまでに至りました。現在は薬剤師が配属されていない職場となっており、行政薬剤師としては非常に貴重な経験をさせていただきました。

3か所目は、牧之原市にある環境放射線監視センターでした。ここでは、浜岡原子力発電所周辺の安全を確認するために、平時における空間放射線量の監視や、農畜海産物等の環境試料の放射能分析、原子力災害に備えた測定機器等の整備を行いました。測定機器の仕様や放射能分析の技術等、専門的な知識が必要であり、業務の間に勉強して第1種放射線取扱主任者の資格を取得しました。事故があった福島第一原子力発電所や、事故当時の状態のままとなっている小学校等を見学する機会もあり、ここでも貴重な経験をすることができました。

4か所目は現在の職場である県庁廃棄物リサイクル課にて、主に産業廃棄物処理業や処理施設の許可を行っております。最終処分場や焼却施設、破砕施設、脱水施設等、様々な処理施設の構造図や処理能力計算書等を確認し、法律の基準を遵守しているかを審査しています。

静岡県庁の行政薬剤師は専門である薬

事行政以外にも、様々な経験をすることができます。私自身も、たった4か所の経験しかありませんが、それでも入庁時には全く想像していなかった様々な経験させていただいています。苦労もありますが、どの職場においても新しい経験や発見の面白さがあります。

薬剤師は、物理系、生物系、化学系と幅広く科学を学んでおり、その科学的知識や科学的思考が様々な分野での活躍につながっています。近年は、AI等のデジタル技術の発展が著しく、行政の現場においてもそういった新たな技術に対応していくことが求められています。私のいる職場でも、AI-OCRやRPAといった技術の活用が始まっており、これまで以上に広い視点と探求心をもって業務に取り組んでいくことが重要となっています。豊富な科学的知識を有し、様々な業務を経験できる行政薬剤師は、薬学の領域を超えた新たな可能性をたくさん秘めているのではないのでしょうか。



薬学×挑戦…研究者として歩むキャリア

第一三共ヘルスケア株式会社 上野 宏 大

(平成29年卒)

私は2017年に静岡県立大学を卒業し、薬剤師免許を取得した後、食品会社、製薬会社の企業研究者としての道を歩んできました。薬学との出会いは、薬剤師として人々の健康に貢献したいという思いから始まりましたが、

大学での研究活動を通じて、薬学の奥深さと可能性に魅了され、研究者として挑戦する人生を選びました。

学部時代は薬物動態学教室（現薬剤学教室）に所属し、尾上教授、佐藤准教授の指導のもと、難溶性の薬物や健康食品素材の溶解性・経口吸収性を改善する製剤研究に取り組みました。大入学入学時は薬剤師への就職を考え、6年制コースを選択していましたが、研究室での研究を行う中で、研究活動への強い興味を覚え、企業研究者への道に進むことを決断しました。薬剤師免許取得に向けた勉強と薬局実習に励みながらも、研究活動に多くの時間を費やし、勉強と研究の両立に挑戦しまし

た。この経験が、私の研究者としての原点だと感じております。

卒業後は、機能性表示食品の研究に力を入れている食品会社に入社しました。大学時代に取り組んだ健康食品素材の吸収性改善研究が当社の研究方針と一致していたことが決め手でした。

医薬品と健康食品は規制の面では大きく異なりますが、効能を發揮する上で成分の吸収や薬物動態の観点では共通点が多く、大学で培った知識を活かすことができました。当社では、素材の物性改善などのプレフォーミュレーション研究から錠剤化などの製剤化研究まで、一貫して製剤研究に携わることができ、6年半の在籍期間で非常に多くの知識と経験を得ました。

その後、優れた効果と厳格な規制が定められている医薬品分野に挑戦したいという思いから、第一三共ヘルスケア株式会社へ転職しました。現在は主に、ア株式会社に転職して従事しており、

成分の安定性を高める物性改善研究や製造プロセスの最適化など、より高度な課題に取り組んでいます。医薬品の規制対応は初めての経験領域であり、社会人8年目を迎えた今でも、日々新しい学びと挑戦が続いています。

また、前職在籍中には尾上教授から、母校で博士号取得への挑戦を勧められました。大学時代に取り組んだ研究成果をもとに論文博士として学位取得を目指すと決めたものでした。このお話は、

自身のキャリア形成において非常に意義深く、薬学研究者としての専門性を高める貴重な機会でした。学位取得には主論文として原著論文を4報用意する必要がありますが、過去の研究成果を再整理し、論文としてまとめ上げる作業は容易ではありません。実験データの再解析、考察の深掘り、文献調査など、細部にわたる作業を会社の就業後や休日を使って地道に進めました。特に、論文の構成や英語での表現には苦労し、

何度も修正を重ねながら完成度を高めていきました。仕事と並行して論文を執筆することは時間的にも精神的にも大きな挑戦でしたが、研究に対する情熱と、恩師の支え、そして「挑戦する心」が原動力となり、今年度に母校で薬学博士の学位を取得することができました。この経験は、研究者としての自信と誇りにつながっています。

これまでの薬学を通じた研究活動は、常に「挑戦」の連続でした。薬学は非常に広範な分野であり、学び続けることで新たな発見と課題に出会います。そうした挑戦を乗り越えてこられたのは、指導教員の先生方をはじめ、職場の方々や家族など、周囲の方々の温かい支えがあったからこそだと感じています。私にとって、経験は何よりの財産であり、「経験は嘘をつかない」という信念のもと、これからも薬学の世界で専門領域を問わず挑戦を続けていきたいと考えています。



薬学×海外キャリア （病院薬剤師からカナダへ）

London Drugs (カナダ) 薬剤師 鈴木 沙 英
(令和2年卒)

このたび、特集記事執筆の機会をいただき大変光栄に存じます。私は2020年に静岡県立大学を卒業後、北里大病院にて2年間のレジデント研修を経て、病棟担当薬剤師として1年間勤務しました。その後は派遣薬剤師として複数の薬局で勤務しながら、カナダで薬剤師として働くことを目標に、英語や各種試験の準備を進めました。

そして2024年12月にカナダへ渡航、実習と実技試験を終え、2025年7月よりブリティッシュコロンビア州にて薬剤師として登録されて、現在はチェーンドラッグストアで勤務しております。病院薬剤師時代には、病棟業務、調剤、混注、学生指導などを主に行いました。レジデントプログラムではオンライン海外研修や診療科研修、臨床研究、他大病院レジデントとの交流会なども経験しました。毎日勉強の日々で大変でしたがこの経験を通して薬剤師としての基盤となる知識や姿勢を身につけることができましたと感じています。

まだまだ発展途上ではありましたが、以前から抱いていた「海外で働きたい」という思いを実現すべく、カナダへの挑戦を決意しました。きっかけとなったのは、北里大学の教員であり、アメリカでPharmDを取得後、臨床薬剤師として活躍されていた岩澤真紀子先生との出会いです。先生の海外での経験談に刺激を受け、「興味があるなら、すぐ行くべき」と力強い後押しをいただきました。その後、カナダで薬剤師として働かれている佐藤厚先生をご紹介いただき、進むべき道がより具体的に見えるようになりました。

カナダで薬剤師資格を取得するには、書類審査および英語の試験のほか、2つの筆記試験と実技試験、州ごとの法規試験への合格が必要です。ブリティッシュコロンビア州では、3ヶ月の講義および3ヶ月の実習からなるブリッジングプログラムへの参加が義務付けられており、私はこのプログラムでカナダ薬局実務の基礎を学びました。

カナダの薬剤師は州によりますが、処方箋受付に加えて、予防接種やデノスマブなどの薬剤投与、オピオイド中毒患者へのマネジメントプログラム、軽度疾患への処方なども行っています。テクニシャンやアシスタントとの分業も進んでおり、薬剤師はより臨床的・専門的な業務に集中できます。特に、医師の予約待ちが長いカナダにおいて、薬剤師は最もアクセスしやすい医療従事者としての位置づけが強まっています。

一方で、日本の薬剤師業務が優れていると感じる点も多々あります。たとえば、粉砕や残薬調整、在宅訪問など、日本の調剤薬局が提供するきめ細やかなサービスは、カナダでは一般的ではありません。カナダでは慢性疾患に関してはリフィル処方の基本であり、門前薬局はほとんど存在せず、患者は主に自宅近くの薬局を自由に選び処方を受け取ります。医師との直接的な連携機会は限られる面もありますが、その

分業剤師自身の判断と責任が重く、専門職としての自律性が強く求められる印象です。

今はまだカナダで駆け出しの薬剤師ですが、異なる医療制度と文化の中で働くことで、薬剤師という職業の新たな可能性を実感しています。日本の医療の良さを再認識する一方で、制度が違えば求められる役割も異なることを学びました。薬剤師は、まだまだ進化する職種だと思います。

免許取得までの準備は決して容易ではありませんでしたが、現在は非常に充実した日々を送っています。カナダでも日本出身の薬剤師が増えてきているようです。もし、海外でのキャリアに少しでも関心がある方がいらっしゃいましたら、ぜひ一歩踏み出してみたいかがでしょうか。皆様のさらなるご活躍を心よりお祈りしております。

地区同窓会だより

北海道地区

地区同窓会代表 **水島 教之**

(昭和54年卒)

なかなか支部総会が出来ず、悩んでいます。北海道は広く、函館・釧路・北見などは宿泊しないと参加できません。札幌圏の卒業生だけ集まってもと考えるとなかなか開催できない状態です。僕の次の支部長も決めるためにも集まろうと思っています。

今回の参議院選挙は社会保障費が争



点の一つでしたが、いざ選挙になるとどの候補からも社会保障費の話は出ていませんでした。年末の予算編成の時に話が出てくると思いますが、国民の審判を受けずに軽々しく決めないほしいと思っています。

ところで、自生大麻は北海道・青森・岩手で多く、中でも北海道は断トツ多く、全体の9割が北海道です。特に北見では多く、日常的に大麻が自生しています。先日北見保健所の方から見せていただいたスライドでは、ごみステーションから大麻草が顔を出しています



た。今年も7月24日に20名で刈り取りに行ってきました。小山の奥深く、何故か道が踏みかためてあり、何回か下見に来ていたんだと思います。今年は大暑で枯れてしまったものや、痩せ細った大麻がたくさんありました。今年の大暑は大暑にも辛いようです。最終的には1万本刈り取りをし、終了しました。

また来年も頑張ります。



関東地区 総会開催

地区同窓会代表 **中村和重**
(平成4年卒)

関東地区では、2024年10月19日に総会を開催しました。今回は講演会イベントを行いましたので、16名の同窓生が出席という小規模なものでしたが、世代や職域を超えた交流と活発な意見交換が行われました。また、幸いにも、総会に出席された全員が、関東地区の幹事として新たに協力いただけることになりました。

総会では、新代表（中村和重）の選出および前代表（本島玲子さん）からの引き継ぎを行いました。これに伴い、会則を一部改正、代表代行や会計監事の人数を見直して現状に即した形とし、より柔軟で実効性のある運営体制を整えました。

当地区の活動方針としては、「会員同士のつながりを深める機会の創出」を重要視しています。具体的には、行政や民間・医療現場など各界で活躍する同窓生による講演会に加え、日本薬学会の年会や薬剤師会学術大会と時期を合わせた企画など、時代のニーズに即した取り組みを検討していきます。2025年度末には、2023年度に横浜で開催した「懇親とネットワーキングの集い」のような交流イベントを再び実施する案も挙がっています。同窓生の専門性や経験を活かした活動は、地

域社会や薬学分野への貢献にもつながるものと考えています。

今後は、当地区に限らず、若手卒業生の参加促進や、オンラインを活用した情報発信の強化も視野に入れた、より多様な形での同窓会活動の展開が期

待されます。特に、卒業生の進路や活動領域が多様化する中で、同窓会が果たす役割も変わりつつあります。情報交換や人的ネットワークの構築を通じて、会員相互の支援体制を築くことが、重要なテーマとなるでしょう。

関東地区同窓会では、学友会会員の皆様のご意見を大切にしながら、より実りある活動を続けてまいります。イベント等開催の折には、地区を問わず、ぜひご参加ください。

	役割 (地区)	氏名	学部卒年
1	地区代表	中村和重	H04 (1992)
2	地区代表代行	本島玲子	S58 (1983)
3	地区代表代行	仲谷博明	S45 (1970)
4	幹事 (会計監事)	佐藤泰士	H05 (1993)
5	幹事 (会計監事)	松浦大輔	H01 (1989)
6	幹事	関本征史	H08 (1996) 修士
7	幹事	多田義孝	H01 (1989)
8	幹事	加藤彩香	H26 (2014)
9	幹事	稲葉良生	S50 (1975)
10	幹事	中村真典	S51 (1976)
11	幹事	高橋俊博	S55 (1980)
12	幹事 (会計担当)	佐野弘和	H25 (2013)
13	幹事	神野文宏	H05 (1993)
14	幹事	越田晃	S59 (1984)
15	幹事	中原努	H03 (1991)
16	幹事	田井鉄男	S59 (1984)
17	幹事	海老原毅	S59 (1984)
18	幹事	大木健史	H07 (1995)
19	幹事	進藤大地	R02 (2020)



関東地区同窓会総会 2024年10月19日

静岡県地区

地区同窓会会長 **岡野 幸次**

(昭和57年卒)

静岡県地区同窓会総会を令和7年1月26日(日)に静岡市(ホテルアソシア静岡)で開催いたしました。平成30年に静薬学友会が法人化され、一般社団法人静薬学友会となったことを受け、静薬学友会静岡県地区同窓会の立上げ、定期総会、研修会及び懇親会を行いました。出席者数は、総会及び研修会で47名、懇親会で40名となりました。

役員選任では、新たに私が静岡県地区同窓会の会長、副会長に田中喜久夫さん(昭和59年卒)、会計に石井めぐみさん(平成15年卒)となりました。どうぞよろしく願っています。

研修会では、初めに、学友会の安倍会長から「静薬学友会の現状」、引き続き、静岡県立大学賀川義之副学長から「静岡県立大学の現状」、最後に、静岡県病院薬剤師会会長 社会医療法人駿甲会コミュニケーションホスピタル甲賀病院 医療技術部部长 渡邊学 先生(平成7年卒)から「静岡の病院薬剤師が

足りない!!」病院薬剤師会の偏在対策と地域連携の取り組み」という演題でご講演をいただきました。薬剤師の教育、養成から職域における諸問題について、改めて考えさせられる研修となりました。

その後の懇親会では、近況などを語り、大盛況のうちに終了いたしました。次回の会は、令和8年2月1日に開催します。地区会員の皆様とお会いできることを楽しみにしております。(P53のお知らせをご覧ください。)



静岡県地区同窓会総会の様子



静岡県地区同窓会総会 ホテルアソシア静岡 2025年1月26日

関西地区

「懇親とネットワーキングの集い」

—2026大阪—でお会いしましょう

地区同窓会代表 **松田 通明**

(平成29年卒)

静薬学友会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素は関西地区の活動にご理解とご協力を頂き、ありがとうございます。

さて、新型コロナウイルス感染症が拡大した2020年以降、お知り合いの方と対面で会う機会がめっきり減ったと感じの方は、少なからず居られるのではないのでしょうか。

その感染症の影響で5年ぶりとなった関西地区同窓会を、一昨年(2023年)に、会場参加とWeb参加のハイブリッド形式で開催しました。恒例では、今年度(2025年度)に地区同窓会の開催を予定しておりましたところ、静薬学友会本部からの提案もあり、来年(2026年)3月開催の日本薬学会第146年会(大阪)に合わせ、その学会最終日の2026年3月29日(日)に、静薬学友会本部と共同で、関西地区と全国的な「懇親とネットワーキングの集い—2026大阪—」を開催する運びとなりました。(本会報

(p.52)をご参照ください。

地区同窓会を大阪で開催するのは久しぶりです。関西地区同窓会の皆様も奮ってご参加頂き、盛り上げて頂きますようご案内申し上げます。

また、全国の同窓の皆様、新旧の大学の先生方、学生の皆様におかれましては、変わりつつある大阪へどうぞお越しくださり、新たな交流の場として友好が深まりお楽しみ頂けます様、歓迎申し上げます。

この集いに向け、今春には、地区学友会の新旧役員(一部)と再会する機会を持ちました。最後にお会いして7年程経つ方もおられ、時間というスパイスが加わり、懐かしくも新鮮でありました。久しぶりの再会に話が弾み、時間の経つのも忘れる程でした。

来年3月に向けて、動き出しております。

みなさんとお会いできることを楽しみにしております。

p.s. 地区会員の皆様のお声や連絡先情報など、以下の連絡先にお寄せ頂ければ幸いです。

連絡先：松田通明

E-mail: shizuyaku-kansai@gmail.com

(注: shizuyaku-kansaiの間に「ピリオド」が入っています)

中国地区

地区同窓会代表

波多野 力

(昭和52年卒)

本中国地区では、2009年4月から地区代表(代議員)を務めてこられた池田潔氏(昭和54年学部卒)のご尽力によって、中国各県在住の卒業生をおもな対象とした講演会などの活動が進められてきました。今般、池田氏および安倍道治学友会会長からのご要請があり、本年5月の理事会を経て波多野(昭和52年学部卒)が同職を引き継ぐこととなりました。

本年6月の同窓会総会への参加を機に、あらためて私も静岡県立大学草薙キャンパスを訪問させていただきましたが、キャンパス周囲の風景も少しずつ変わってきております。特に静岡市から離れた地域に居られる同窓生の皆様におかれましては、季節の良いおりに大学の周辺を歩いてみられますと、新たな発見があるかもしれません。

本年8月に広島市で開催されます第42回和漢医薬学会学術大会では、これまで同窓会中国地区にてご講演などの

多大なご協力をいただいていた中島正光・広島国際大学教授が大会長をされています。市民公開講座も開催されるとのことで、地区同窓会会員の皆様に同大会のご案内をさせていただきます。中島教授は、東亜医学協会理事長を経て和漢医薬学会理事長を務められており、本学術大会におきましても、多くのテーマでの講演等を準備しておられます。日々、薬局や病院薬剤部等で漢方処方・方剤に接しておられる同窓生の皆様も少なくないとは存じますが、漢方医学概念の多義性・複雑性等の問題もあつて学習の困難さを感じておられる向きもあるのではないかと存じます。ご多忙とは存じますが、この機会に本学術大会にご参加いただき、漢方の新たな活用法への端緒など見出しただけであれば幸いです。

同窓会中国支部の今後の活動といたしましては、より多くの会員の皆様に関心を持って、中国地区講演会等にご参加いただけるよう、オンラインでの会も含めて検討し、交流が進められればと考えております。一層のご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

(P.54のお知らせをご覧ください。)

九州・沖縄地区

地区同窓会役員 熊本市内在住

横田 崇

(平成11年卒)

静薬学友会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

私が県立大学を卒業して早いもので30年近く経ちました。卒業後、医療機関で感染制御やアレルギー疾患、がん化学療法、緩和医療関連の業務に従事した後、今年1月より、パーキンソン病や片頭痛を中心とした病院に勤務しています。昨年末に身内を進行性の神経疾患で見送ったこともあり、現在の勤務先にとっても縁を感じています。50床と小回りが利く規模のため、部署同士顔が見えやすく職種を超えた連携が活発に行われています。また神経疾患は患者さんによって症状や課題が多様で、病棟での朝の申し送りに参加することで気付きや処方提案のきっかけとなるのが少なくありません。以前取得した抗菌化学療法認定薬剤師の資格を活かして院内感染対策に関わりながら、パーキンソン病療養指導士(2022年から薬剤師も認定対象)取得と業務への還元を目指して日々励んでいます。その他、縁あって看護学校の臨床薬理学講義の担当を10年近く続けており、知識のアップデートや看護職側か

ら見た医薬品安全管理に関する様々な気付きに繋がっています(講義内容は院内研修会や実務実習にも還元)。

プライベートでは、在学中に当時北安東にあった血液センターで骨髄ドナー登録を行ったことがきっかけで始めた献血(30年目でようやく320回目に到達)やフルマラソン(いつの日か静岡マラソンに出走できればと思っています)、登山などでon/offを切り替えながら過ごしています。写真は11年前、初めての富士登山の時に持参したパルスオキシメーターの測定結果です。酸素濃度が平地の約80%といわれていた通り、SPO2も山頂では安静時でも80%でしたが、息苦しさは皆無で不思議な感じがありました(喘息発作時では95%でもかなり息苦しいです)。2泊3日の山小屋利用のため、高山病の心配もなくご来光も2度観ることができました。

最後に、地区同窓会活動の近況についてですが、先日オンラインミーティングで県外の先生方とお会いすることができました。久々にお会いしたにも関わらず、在学中の九州人会ののことを昨日のことのように思い出しました。地区同窓会が開催されると、今回のミーティングのように、きっと皆様の交流が深まる場になると思います。開催される日を心待ちにして頂けると幸いです。



↑富士山 7合目 (2800m)



↑富士山 7合目 (2800m) まだ95%



↑山頂浅間神社 (3450m) 80%

令和6年度薬学生涯研修講座報告

(2025.2.24)

「慢性心不全の基礎と臨床 ～地域連携の取り組みを含めて～」

主催：一般社団法人静薬学友会/静岡県立大学薬学部

後援：静岡県薬剤師会/静岡県病院薬剤師会/静岡市薬剤師会

令和7年2月24日（月・振休）、静岡県立大学小講堂にて、令和6年度薬学生涯研修講座が開催されました。今回はオンライン配信を併用したハイブリッド形式で実施し、会場とオンライン合わせて117名の方にご参加いただきました。

日本は高齢化に伴い、慢性心不全患者が増加する「心不全パンデミック」という状況に直面しています。こうした現状を踏まえ、今回の研修では「慢性心不全の基礎と臨床」をテーマに掲げました。

本講座では、4名の講師が心不全に関する基礎から臨床までを網羅した充実した講演を行いました。心不全の病態、遺伝子変異との関連性、最新の治療ガイドライン、そして地域医療連携や退院後のフォローアップ、保険薬局における在宅患者への対応など、多角的な視点から学びを深める機会となりました。

（日本薬剤師研修センター研修認定 2単位）



【講演】

1. 「心不全の基礎研究～心臓のリモデリングと新機能不全について～」

講師 静岡県立大学薬学部分子病態学講座講師 刀坂泰史（平成15年卒）

座長 静岡県立大学薬学部医薬生命化学分野教授 浅井知浩（理事・平成9年卒）

2. 「心不全の薬物療法・ガイドラインと病院薬剤師の関わり」

講師 静岡県立総合病院薬剤部 古谷翔太先生（平成27年卒）

座長 菊川市立総合病院薬剤科長 瀧 祐介（理事・平成12年卒）

3. 「心不全患者への退院後の服薬フォローアップと薬薬連携の取り組みについて」

講師 医療法人恒仁会新潟南病院薬剤部長 渡部 学先生

座長 社会医療法人駿甲会甲賀病院医療技術部部长/静岡県病院薬剤師会会長

渡邊 学（理事・平成7年卒）

4. 「在宅心不全患者への保険薬局薬剤師の対応と医療連携」

講師 浜松センター薬局 久我明男先生

座長 浜松市薬剤師会副会長 野寄秀明（理事・平成10年卒）

近藤基金支援者報告

医薬品化学分野 佐藤 彩乃

(令和7年卒)

私が短期語学研修への参加を決意した理由は、やらない後悔をしたくないという思いからです。約1年間にわたる就職活動を通じて、今後ますます海外市場の拡大が重要になると実感しました。それに伴い、英語力の必要性を痛感し、日々少しでも英語に触れることを目標に勉強を続けてきました。しかし、特にスピーキングに十分な時間を割くことができず、その点に課題を感じていました。

さらに、大学1年生の2月頃から新型コロナウイルスの影響で様々な活動が制限されたこともあり、1年生の夏に挑戦しておけばよかったと後悔することもありました。そこで、大学生として最後の機会を活かし、社会人になってからは難しい1ヶ月という期間を使って、英語力の向上だけでなく、日本とは異なる文化についても学びたいと考えました。

実際に研修に参加してみて、正直に言えば英語のスキルが大きく向上したかどうかは分かりません。しかし、クラスメートや先生方、そしてホーム



テイ先の方々との交流を通じて、自己学習だけでは得られない貴重な経験を積むことができました。自分の言い合いことをうまく伝えられず、もどかしい思いをしたこともありましたが、そうした経験が今の学びのモチベーションにつながっています。現在も、日々少しでも英語に触れるよう意識しながら勉強を続けています。これからも自身のスキルアップを目指して、積極的に挑戦し、新しいことを楽しみたいと思います。

医薬生命化学分野 渡邊 翠

(令和7年卒)

この度は、国際学会参加に対してご支援いただき、深く感謝申し上げます。私は、薬物送達技術について研究しており、現在、生体内で重要な役割を担うタンパク質の細胞内送達技術の開発に取り組んでいます。これまでの研究成果を、英語で発表、ディスカッションするため、国際学会へ参加を希望しました。American Chemical Society (以下ACS)は、アメリカに基盤をおく、世界でも最大規模の学術団体であり、ACSが主催するACS Fallでは科学の様々な分野の研究者が集い、討論を行います。その学会に参加することで、自身の研究力の向上につながり、私にとって非常に貴重な経験となりました。特に、ポスター発表を行った際には、多くの方が私の発表に興味を持ってくださり、鋭い質問やアドバイスをいただきました。今後研究を進める上で、とても参考になる意見をいただくことができました。学会は、最新の研究成果や技術の進展を知る絶好の機会です。

この度は、国際学会参加に対してご支援いただき、深く感謝申し上げます。私は、薬物送達技術について研究しており、現在、生体内で重要な役割を担うタンパク質の細胞内送達技術の開発に取り組んでいます。これまでの研究成果を、英語で発表、ディスカッションするため、国際学会へ参加を希望しました。American Chemical Society (以下ACS)は、アメリカに基盤をおく、世界でも最大規模の学術団体であり、ACSが主催するACS Fallでは科学の様々な分野の研究者が集い、討論を行います。その学会に参加することで、自身の研究力の向上につながり、私にとって非常に貴重な経験となりました。特に、ポスター発表を行った際には、多くの方が私の発表に興味を持ってくださり、鋭い質問やアドバイスをいただきました。今後研究を進める上で、とても参考になる意見をいただくことができました。学会は、最新の研究成果や技術の進展を知る絶好の機会です。



会場にいた謎の着ぐるみと、左から1番目が本人

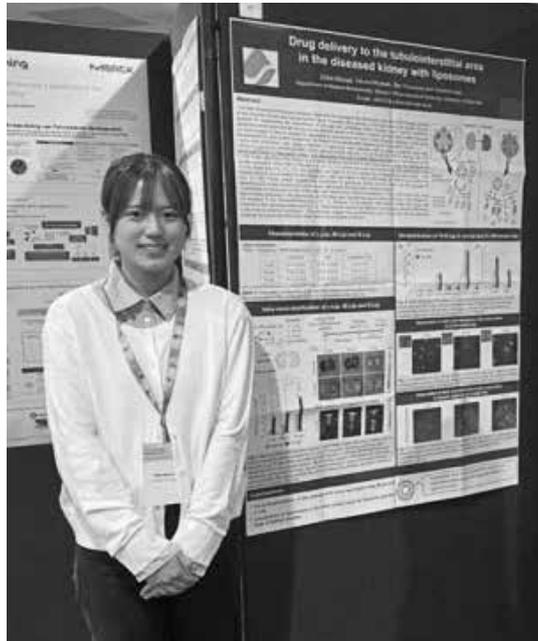
あり、また、同じ分野の専門家と交流する場もあります。今回の学会は、多様なテーマが取り上げられており、参加者のバックグラウンドもさまざまでした。これにより、異なる視点やアプローチを学ぶことができ、自身の研究に新たなインスピレーションを得ることができました。さらに、学会の間には私の大好きなハンバーガーショップを巡るなど、現地での日々も充実しており、国際的な視野を広げることもできました。

最後に、今回、国際学会に参加するにあたり、ポスターの作成、発表練習など、多くの方にサポートしていただきました。改めて、このような機会をいただいたことに感謝します。

医薬生命化学分野 室谷 千佳

(博士前期課程2年)

私は今年の六月に、二年に一度開催されるLiposome Research Days 2024に参加させていただきました。本国際学会は1988年から開催されている学会であり、今回は18回目の開催でした。今年はスコットランドのグラスゴーにあるストラスクライド大学テクノロジ・イノベーションセンターにて開催され、カナダ・アメリカ・ヨーロッパ各国などから多数の研究者が参加し、生化学/生物物理学の基礎研究からナノ粒子の臨床応用まで、リポソーム研究のあらゆる側面に焦点を当てた発表が行われました。機会に恵まれ、私はポスター発表させていただきました。



ました。

学会期間中ではディナーパーティーも開催され、同じ研究分野である皆さんの研究者や著名な先生方とお話する機会があり、とても貴重な時間を過ごすことができました。

研究を進める上で、幾度となく困難に直面し挫折しそうになることもありましたが、国際学会を通じて同じ分野の研究者と交流することで、新たな視点やモチベーションを得ることができました。今回の貴重な経験を糧に、今後の研究や就職活動にも全力で取り組んでいきたいと考えています。このような貴重な経験には経済的な支援が必要不可欠でした。ご支援いただいた静薬学友会に感謝申し上げます。

分子病態学分野 川瀬 裕斗

(薬学専攻博士3年)

この度、キャリアデザイン近藤寄附講座様より、国内外の短期留学・研修等の学術研究に係る支援をいただき、誠にありがとうございます。頂戴した支援金は、中国への渡航費のために有効に活用させていただく所存です。

私は、本学薬学部から大学院に進学し、学部4年次より現在も所属する分子病態学講座にて日夜研究活動に励んできました。私が所属する研究室では、日本人の死亡原因の第2位である心疾患の発症メカニズムに関する研究などを行っております。私自身も心不全に対する新たな治療標的や治療薬の探索を行い、学部の卒業論文では天然物シウガ抽出物の心不全抑制効果についてまとめました。

近年、天然物や漢方に着目した薬理学研究には最先端の生命科学・医学研究の知見や技術が導入され、トップジャーナルでも取り上げられる分野に成長しています。本年、私は所属する研究室の教授である森本達也先生の推薦で、大学院生、ポスドク研究者、学位取得後5年以内の若手教員が対象である国際基礎臨床薬理学連合 (IUPHAR) 及び中国薬理学会が中国青島で主催する International Training Course on Pharmacology of Natural Products



and Traditional Medicinesに参加する機会をいただきました。本コースではIUPHARに所属する先生方の講演の公聴とグループディスカッションを通して、天然物や漢方に着目した薬理学研究の最新の知見や技術を学びました。特にアジア圏において漢方薬の処方や処方意図には日本と大きな差があることを知り、非常に衝撃的で強く印象に残っています。

本研修で様々なバックグラウンドを持つ方々とお話しし、自身なりの研究を確立することの重要性を感じました。今後、自分の研究観を深めながら研究活動を続けてまいります。引き続きご支援とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

医薬生命化学分野 前島 澄香

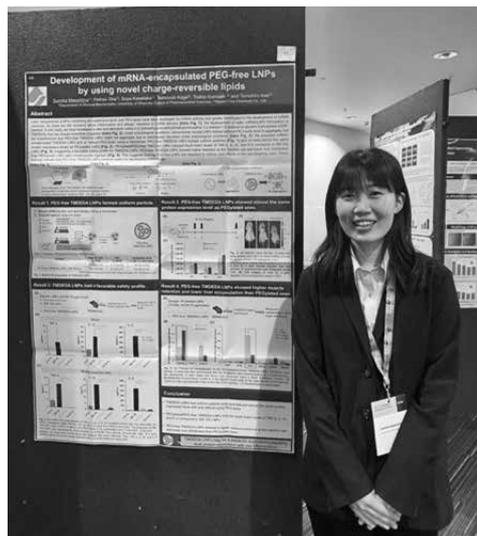
(博士前期課程2年)

6月26日から29日に、イギリス・グラスゴーで開催された「18th Liposome Research Days 2024」に参加し、ポスター発表を行いました。本学会は、世界中の企業やアカデミアの研究者が集まり、リポソームや関連するDDS分野の最新技術や研究成果を共有する場です。

私は、「Development of mRNA-Encapsulated PEG-free LNPs by Using Novel Charge-Reversible Lipids (新規電荷反転型脂質を用いたPEG-free LNPの開発)」というタイトルでポスター発表を行いました。本研究では、副作用を軽減した疾患治療への応用を目指し、独自のpH応答性脂質(DOP-TMDEDA)を設計し、高い生体適合性が期待できるPEG-free LNPを開発しました。そして、開発したLNPについて、粒子の物性評価、in vivoでのタンパク質発現活性、またPEG修飾の有無による体内分布を検討し、その結果と考察を報告しました。

入念な準備を重ねて臨みましたが、初めての学会発表であったため、非常に緊張しました。発表自

体は順調に行えたものの、質疑応答ではやや苦戦しました。しかし、質問者がわかりやすい表現に言い換えてくださったり、回答を理解しようとしてくださる姿勢に温かさを感じました。また、セッションを通じて最先端の情報を得ることができ、非常に良い刺激となりました。今後は研究面および語学面でさらなる努力を重ね、研究生活をより充実させていきたいと考えています。フライトの遅延から始まり、行きのフライトでポスターが行方不明になり、予備の折り目だらけのポスターを使う羽目になる等、多少のハプニングはありましたが、充実したイギリス出張となりました。とても貴重で有意義な経験となりました。キャリアデザイン近藤寄附講座学術研究支援事業に感謝申し上げます。



医薬生命化学分野 山田 遙香

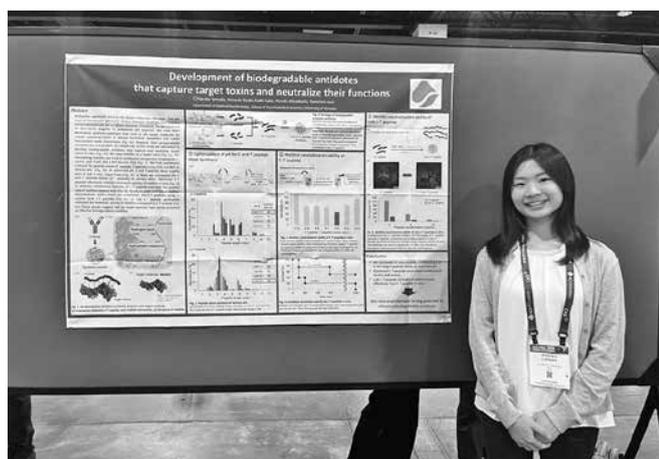
(薬学科6年)

この度は、キャリアデザイン近藤寄附講座からの支援に深く感謝申し上げます。私は今年の八月に「ACS FALL 2024 Elevating Chemistry」に参加させていただきました。本学会は、世界中の第一線で活躍する研究者が集まる国際学会であり、今年はアメリカ・デンバーにあるコロラドコンベンションセンターで開催されました。機会に恵まれ、私は本国際学会でポスター発表をさせていただきます。

私が所属する研究室では、毎月英語で研究報告を行う機会があり、留学生も多くいる環境で、普段から英語で議論することの楽しさと重要性を感じています。そのため、この機会を活かして、国際学会で発表することを決意しました。発表に向けて、自分の研究テーマに対する理解を深め、英会話の勉強にも力を入れました。特に、ネイティブの先生に直接指導していただくことで、研究について英語でスムーズに話せるようになったと実感しています。そして、本学会で無事にポスター発表を行うことができ、様々な国の研究者と自分の研究について議論することができました。この経験は非常に刺激

的で、自己成長を実感できた瞬間でもありました。さらに、自分の専門分野とは異なる分野の研究者の発表を聞き、交流することで、新たな視点や知識を得ることができました。

日々研究を進めていく中で、楽しいことばかりではなく壁にぶつかることもありますが、先生やともに実験に励む仲間とのディスカッションを大切にしながら、積極的に挑戦を続けていきたいと考えています。また、今回の貴重な経験を活かし、広い視野を持ちながら多角的に考え、研究に取り組んでいきたいと強く思っています。



実践薬学分野 石田 光稀

(薬学科6年)

本研修ではワシントン大学に4日間、アリゾナ大学に6日間とアメリカでも著名な大学及び大学病院を訪問し、アメリカの薬剤師、薬学教育についての理解を深めつつ、日本とそれがどう異なり、どういった点を日本の薬剤師、薬学教育に活用するべきなのかを深く考える貴重な機会となりました。

ワシントン大学ではPain & Palliative Care分野で臨床薬剤師として活躍されているIto Satoru先生に同行し、アメリカにおける緩和ケアの現状や臨床薬剤師の働き方について学ばせて頂きました。日本でも近年地域包括ケアの概念が急速に普及しつつあり、在宅や病院での緩和ケアの導入が進められつつあります。患者様の痛みや苦痛に薬剤師として、そしてチームとしてどう向き合い、患者様の最期に寄り添っていくべきかを深く考えさせられました。

アリゾナ大学ではMichael Katz先生とコーディネーターのAkiko Ota先生のご尽力により、薬学部の講義に参加させていただいただけでなく、アメリカ、エジプト、カタール、サウジアラビア等各国の薬学教育、薬剤師の果たすべき役割について日本に関する情報交換も交えつつ学習させていただきました。



した。研修の冒頭でEdwards先生よりこれからの薬剤師について「グローバルな視点を持ち、10年後、20年後を見据えて成長し続けることが重要だ」というお言葉を頂き、実際にこの研修での成長の足がかりとなるような知識や経験を身につけることができました。

本研修で得られた学び、経験は、全て皆様のお力添えのお陰で得られたものであります。

得られた知見を存分に活用し、患者様や社会に還元していくため、これからより一層の努力を積み重ねていく所存です。

皆様からいただいたご支援に心より感謝を申し上げます。

実践薬学分野 大城 熙

(薬学科6年)

この度は、国際医療研修を支援していただき誠にありがとうございます。

本研修は、アメリカの医療体制を学びつつ、日本の医療体制を見直す貴重な機会となりました。アメリカの医療体制から学べる点は多く、特にレジデント制度などの教育体制が整備されており、医療従事者の専門性が高いことが挙げられます。また、Epicなどの電子カルテシステムが普及しており、医療機関間の連携がスムーズです。しかし各機関の専門性が高度なため、患者は多くの医療機関を訪ねなければならぬ場合があり、ジェネラリストの育成が求められている現状もありました。また、薬剤師に関してアメリカの教育制度を参考にすべきだと考えています。日本では薬剤師へのタスクシフトや調剤業務の移行が進んでいます。アメリカでは病院薬剤師がレジデント制度の修了具合により「staff pharmacist & clinical pharmacist」「clinical pharmacist specialist」などに区分され、それぞれの専門性を活かした分業が行われており、この分業が業務の負担軽減と専門性の強化に繋がっているため、日本



にも取り入れるべきだと感じました。さらに、この研修を通じて国際的な活動への意欲が高まりました。英語を活用する機会は、海外研修だけでなく、海外の文献を読む際や外国人患者への対応など、今後の薬剤師としてのキャリアにおいてますます重要になると感じています。この研修で得た経験は、私を積極的に行動させる原動力となり、これから出会う患者を助けるための糧となるに違いありません。今後の薬剤師としての人生をより充実させるために、この貴重な経験を活かしていきたいと思っております。

会員だより

昭和37年卒(六回生)同期会

河村 信弘

(昭和37年卒)

開催日…2025年5月16-17日
場所…クラウンパレスホテル浜松
参加者…池田 明、大久保好子、
奥田允子、大胡陽子、
河村信弘、工藤弘子、
桑原伊玖子、笹田庸子、
佐藤朝子、鈴木智彦、
平良武男、玉井ひさ子、
豊田 満、服部恒彦、
松岡千恵子、吉岡 乃、
吉岡はま、渡辺 忍

以上18名

前回の同期会(2024年5月10-11日)から1年後の今回の開催となった。この歳になると1年で状況が変わるので昨年から引き続きの開催となり、幹事の笹田さん、吉岡はまさん、佐藤さんには設営等の苦勞に感謝したい。

○5月16日…懇親会

懇親会は同ホテルの和食料理店・四季で17時半より18名の出席で行われた。

北は北海道から、南は沖縄からの参加があったが前回より若干参加者が少なくなった。先ず全員の元気な姿を撮影した後、吉岡はまさんの開会のことばに続き乾杯し、会食と歓談に入った。

前回から1年後の開催となったが、その後の近況など話し合った。豊田さんから腎機能が強まる食べ物の資料配布や、佐藤さんご自身の健康体験談、さらに玉井さんの介護の話などあり、我々も自分のことに置き換えて感じとった。その後料理を堪能したあと別室で二次会を行った。二次会では会食で話し合えなかった方々との話でさらに盛り上がり、河村のオカリナ演奏で「上を向いて歩こう」「ゴンドラの唄」など学生時代に親しんだ歌を歌いながら会の雰囲気も和んだ。

○5月17日…浜松市内観光

二日目は事情ですぐ帰られる方々もおられたが、雨のため遠くには行けなかったので楽器博物館に行かれた方もおられたようでしたが、小生は市内の浜松城に向かった。市役所南のバス停を下車すると、すぐに城が目についた。野面(のづら) 積み石垣を見上げ城内にはいる。1570年から約20年間

徳川家康が居城したとのことである。城内では、城下町の復元模型展示や城と城下町についての変遷についてプロジェクションマッピングなどがあり、現在の我々にも分かりやすい解説があった。

○次回予定

来年は米寿祝賀会を開催する予定となったが、当初開催時期を春か秋とし

ていたが、その後春開催希望の方々の多いことや、現在の会場が「ANAクラウンプラザホテル浜松」となり大改装されることもあり、幹事の打診により来年(2026年)5月15-16日の開催が決まった。

「新緑や米寿問近の友集ふ 信弘」



昭和37年卒(六回生)同期会 クラウンパレスホテル浜松 2025.5.16-17

静薬昭和45年卒同窓会

尾 阪 芳 孝

(昭和45年卒)

コロナ禍で延期後3年越しで静岡で開催された昨年に続き、今年は日本で最初の世界遺産となり30年経過の姫路城、明石海峡大橋、神戸での実施となりました。姫路駅集合からスタートし、姫路城をガイド付きで見学、歩くことが大変になっていると言っていた皆様のお大半が天守閣の急な階段を登ったのには感嘆しました。その後明石海峡大橋の本州側のスタート地点にある舞子駅に移動、地上45mからガラス越しに覗く明石海峡の波飛沫に尻込みしながらも歓声を上げ、夕刻の明石海峡を背に記念撮影の後、明石海峡大橋を見渡せる「シーサイドホテル舞子ピラ神戸」で直接ホテルに入った方々と合流しました。懇親会はライトアップされた橋を見ながら同ホテルで開催。同期の故人（19名、昨年より2名増加）に黙祷を捧げた後、後期高齢者にもかかわらず酒豪が多い中でスタートしました。近況報告の新たにダンスを始めた話、持病と戦いながらも前向きに生活している話、終活の話等で大いに盛り上がった後、全員で席をホテル上階のラウンジに移動。そこでも歓談はつきず、更に世話人の部屋に戻った後も深夜まで続きました。にも拘わらず、翌朝の朝

食レストランには、オープンと同時に大半の方が来ており、皆様の早起きと元気に驚嘆。記念撮影終了後、予定より1時間早い解散とし、希望者による（15名）神戸クルーズ他へ出発することとなりました。神戸クルーズは今春改装工事終え再オープンした神戸ポートタワー下から、ロイヤルプリンセス号での約45分の神戸港一周。明石海峡大橋、神戸空港、六甲山系や遠く紀伊半島、四国を眺められます。偶然寄港していた海外の豪華客船に近づき、海外クルーズの気分も少し味わえました。その後元町中華街に移動し、昼食

を兼ねた懇親会。予算の都合で注文厳禁の3品、フカヒレ姿煮、干し鮑の料理、燕の菓料理に皆様不満なく？守り、ここでもアルコールが入り話は尽きず。

加齢と共に移動特に歩行が徐々に大変となる中で、本会を少しでも長く、また少しでも多くの方が参加できる方法を探ることを今後の検討課題とし、また来年の再会を楽しみにして、神戸駅で解散となりました。

開催日…2024年10月20日～21日
場 所…懇親会、宿泊 シーサイドホテル
テ ル 舞子ピラ神戸

出席者…22名 敬称略

- 大村敏子、大村啓子、小澤紀子、折田和恵、柴田揚子、新里光子、尾阪芳孝、川岡達彦、川添正幸、金月一夫、後藤武茂、後藤守男、櫻田照男、佐野満昭、住川弘、清家功、廣田勇夫、牧野博一、増田義典、山崎正敏、山本育由、藁科利夫



昭和45年卒同期会 シーサイドホテル舞子ピラ神戸 2024.10.20-21



ホテル舞子ピラ庭園 2024.10.21

鬼怒川も穏やか也 ミニミニ同期会

溝口 雅子
(昭和48年卒)

2024年9月16日〜17日 於鬼怒川温泉

旅のワクワク感は何日も前から始まる。9月初めには台風10号が東海地方に接近し、大気が不安定な状態が長く続き、新幹線も運休した。そんなわけで台風だけは来ないでと願う。

さて今年にはメンバーの声かけも功を奏し、参加者が7名も増えた。

遠距離では徳島、福井、大阪とそれぞれ独自のルートで目的地へ向かった。ラインで途中の景色を送って楽しんでる人もいる。

今回の集合地は、栃木県鬼怒川温泉。北千住から新型特急スペーシアXに乗る。窓枠が特徴的な組子デザインの列車。申し合わせたように9人が乗り込んで来た。北千住の乗車場所がかなり分かりにくく、皆苦労して辿り着いていた。車窓の風景はのどかで、都会から遠ざかるのを感じる。時々かなり揺れるので、広めのトイレの中ではつかまる場所に苦労する程。同席した地元の人が、下今市駅から蒸気機関車も運行していると話してくれる。2時間ほどで鬼怒川温泉駅に着く。

周りを緑に囲まれた静かな温泉街。9人でホテル目指して歩く。心配していた雨の予想はどこへやら、日傘片手にあれこれ言いながら歩く。

ホテルの近くにある鬼怒川橋岩大吊橋に行ってみる。川のせせらぎを聞きながら高さ37mの吊り橋から鬼怒川や温泉街を眺める。曇り空でも歩くと暑い。感激の再会。

男性5人はライン下りを楽しんできっていた。牛川さんご夫婦は徳島から土曜日出発で初参加、長倉さんと中村さん(義兄弟)は大阪から、芳澤さんは埼玉からの初参加となった。福井の多田さんは車にて上越市に前泊してきてくれた。総勢21人が集まりバイキング方式の食事が始まる。足腰を鍛えるものとなる。まわりを見まわすと、どなたかすぐには名前が出てこない。卒業後半世紀以上会っていない人もいるのだから無理もない。何クラスだった？話していくうちにお互い面影を見つけ、研究室の話や、クラブの話で糸口を見つけ、それから現代の話へと50年分話そうとする。当然時間がないので幹事部屋で続きを繰り広げた。

佐藤さんが自費出版したと言う、名前DNA占いの本を皆に配付してくれる。清水さんの息子さんはスポーツファーマシストとして活躍中で、日薬学術大会で講演したり、インドネシアで普及活動してきたとか、家族の話も聞ける。兎に角、一緒に話している喜びで気分は上々、笑顔が絶えない。これが同期会の醍醐味かな？

今度はどこに行きたい？と今回の目的地を早々と皆で考える。今回は興津さんが、幹事として全て計画してくれた。アドバイザーは長年の取りまとめ役山下さんと去年幹事の

亀山さん。次回幹事は伊藤さんが推荐され、興津さんは又々有難いことに補佐役をかって出てくれた。のんびりと温泉に入り、夜は更けていった。

翌日は、メンバー13人が望んだ日光東照宮詣。日光山を開いたという勝道上人銅像前に集合。そこからガイドさん案内のもと90分観光。まずは1250年の歴史を持つ日光山輪王寺に参拝する。75mの木造3仏像を間近で見学し、鬼門除札(きもんよけふだ)を戴く。おりしも今日は一粒万倍日で、ガイドさん曰く、この御利益を、1250年の運を持って行って下さいとのこと。何かの役に立つかもしれないと期待してしまふ。

本命の日光東照宮は陽明門から感動する。508体の手彫りの彫刻が見る者をうならせる。一日中見ている飽きないことから日暮らし門と呼ばれるそう。日差しが強くて日陰に集まって話を聞く。横を通る修学旅行生と似ている。

東照宮の階段は高さがあり、一歩一歩踏みしめて登る。三猿、眠り猫を見て、薬師堂に入る。天井の鳴籠に耳をすます。位置が少しでもずれると全く鳴かない。真ん中でお坊さんが拍子木を打つと鈴が鳴っているような音がした。見学者には外国人も多く、お坊さんは日本語の後、すぐさま流暢な英語で同じことを伝える。素晴らしい。時空を超えて今な



お息づく先人のなせる技に感服しつつ、その文化を伝承する姿にも感動した。脚力に自信のある5人はその後家康の墓所まで又階段を207段登った。その頃4人のゴルフ組もなかなかのスコアで楽しんだ。2日間の鬼怒川、日光は鬼も優しく微笑んで、天気も崩れることなく笑顔あふれるものとなった。

今回の参加者(敬称略)は伊藤、牛川ご夫妻、興津、亀山、絹村、佐藤英二、柴田、清水みち子、鈴木幸男、多田、中川、中村良雄、長倉、原田、平林、堀内、山下清美、芳澤、若林、溝口でした。

昭和48年卒ミニミニ同期会 鬼怒川温泉 2024.9.16-17

日本平ホテルでの 50周年記念パーティー

代表幹事 木下俊也
(昭和53年卒)

昭和49年に静岡薬科大学に入学した私たち同期は、これまで「湯けむり温泉ツアー」と題して全国各地の温泉地で同期会を重ねてきました。今年、大入学50周年という節目を迎えるにあたり、思い出深い静岡の地で記念同期会を開催しました。

開催概要

日程：2024年11月

17日(日)～18日(月)

会場：日本平ホテル(富士山と駿河湾を一望できる名所)

この時期は雪化粧をまとった富士山が美しく、22名の参加者が15時にホテルに集合しました。到着後、中庭で富士山を背景に記念写真(写真1)を撮影。夕方6時から富貴庵「芙蓉」で宴会が始まり、和やかな雰囲気の中、50年分の思い出話を花を咲かせました。宴会終了後は4階の客室で二次会を開催し、夜遅くまで旧交を温めました。

翌18日(月)の朝食後、8時30分に一旦解散。ですが、有志17名によるオプションツアーが再スタートしました。

オプションツアー

目的地：富士山河口湖&時之栖温泉

高級車3台に分乗し、日本平

久能山スマートICから出発。

以下のスポットを巡りました

・河口湖もみじ祭り会場

・久保田一竹美術館

・時之栖イルミネーション

(写真2)

時之栖では、きらめくイルミネーションの光の妖精たちが出迎えてくれ、参加者全員が幻想的なひとときを楽しみました。

19日(火)は朝食後に三島スカイウォークと三嶋大社を訪れ、静岡市内で解散。今回のオプションツアーは安達君が企画を一手に引き受けてくれ、ラインアルバムを活用して全員が旅の情報を共有できたことも大成功の秘訣でした。

次回の同期会

次回は九州・大分県の黒川温泉で開催予定！日時は未定ですが、再び元気な顔ぶれが揃うことを楽しみにしています。

これまでに訪れた温泉地は、大仁、浜名湖、下呂、松島、小豆島、熱海、石和、有馬など。どの場所も思い出深いですが、今回の静岡での50周年記念同期会は特別なものとなりました。

参加者一覧

青木、安達、石岡、宇野、老田、瓦谷、木下、木下、葛上、佐々木、篠原、辻本、本栄子、寺田、丹羽、萩原、東山、藤井、堀江、前田、山本啓、吉田雅、利光の22名。特筆すべきは、故・辻本君の奥様、栄子さんが奈良から参加してくださいましたこと。ご厚意に心より感謝申し上げます。

50周年という節目にふさわしい記念同期会を、みなさんと静岡の地で開催できたことを心より嬉しく思います。また九州でお会いしましょう！



時之栖イルミネーション 2024.11.18 (写真2)



昭和49年入学同期会 日本平ホテル 2024.11.17 (写真1)

小菅卓夫同門会クリスマスパーティーを開催しました

(2024.12.7)

木下俊也

(昭和53年卒)

昭和42年に開講された薬剤製造学教室（小菅卓夫教授）時代から続く伝統のクリスマスパーティーが、令和6年12月7日（土）、日本平ホテルにて開催されました。今年も薬剤製造学教室、薬品資源学教室、漢方薬研究所出身者

合同で開催し、多くの卒業生が集いました（写真1…最初の集合写真、写真2…パーティー終了後の集合写真）。

今回は従来の夜の開催を改め、初めて昼間に開催しました。当日は澄み渡る青空に雪化粧した富士山が美しく映え、絶好のロケーションに恵まれました。この素晴らしい景色を背景に、和やかな雰囲気の中でパーティーがスタートしました。

辻邦郎先生の挨拶で始まったパーティーは、歓談や食事を楽しみつつ、参加者全員が近況報告を行う場面も設けられました。各地で活躍する皆さんの話は興味深く、あっという間に2時間が過ぎ去りました。特に今回最も遠方から参加されたのは、福井県からお

越しの吉田敏彦さんでした。その後、締め「万歳三唱」では、荻野浩一さんが日本万歳協会推奨の形式で会場を盛り上げ、大いに笑顔と拍手に包まれて幕を閉じました。

今回のクリスマスパーティーは、令和7年12月7日（日）12時より、同じく日本平ホテルでの開催を予定しています。卒業生の皆様、ぜひお誘い合わせの上ご参加ください！

参加者一覧（計27名）

- 辻邦郎、糠谷東雄、山本藤輔、荻野浩一、木下俊也、東山文生、稲岡靖規、吉田敏彦、廣瀬卓、勝山善彦、上田春美、山崎英洋、塚本理史、脇田広美、山口智彦、夏山龍煥、夏山浩美、熊澤広明、松浦大輔、多田明弘、神野文宏、中安英敏、野沢暁、富永恵隆、濱野洋行、西坂扶岐子、唐木普一郎（初参加）。



小菅卓夫同門会クリスマスパーティー 日本平ホテル 2024.12.7（写真1）



パーティー終了後の集合写真（写真2）

第29回植物研究部OB会報告

馬場 宏 行

(昭和44年卒)

2025.5.21～5.23、植物研究部OB会が新潟県妙高市で行われました。

妙高関温泉に77歳～85歳（平均年齢81歳？）のメンバー11名が関西、関東、静岡から集合。かけ流しの温泉、山菜などを多用した郷土料理を楽しんだ後、恒例のスライド会になりました。

いつもの通りメンバーが各地で撮影した山野草や、野鳥の写真などを鑑賞。更に今年過去の植研部の活動の記録写真をまとめました。今は亡き、斉木上野両先生をはじめ、お世話になった先輩諸氏の懐かしい映像を見ることができました。卒業以来60年近くが経過したことに改めて感慨深いものがありました。また植物観察の楽しさを教えていただいた恩師、先輩方に対する感謝の気持ちを再確認することになりました。

翌日は妙高、笹ヶ峰高原を目指しました。標高1300mほどの高原にはまだ所々に残雪があり、早春の花たちが次々と顔を見せてくれます。ミズバショウ、リュウキンカ、ニリンソウ、カタクリ、オオタチツボスミレ、ミヤマスミレ・・・等々。キクザキイチゲ

は普通白花なのですが、雪国ではブルーから淡紫色の美しい花を見せてくれます。そんなキクザキイチゲはルー卜脇に次々と続きます。

まだ芽吹き前の白樺林を進めば、ホトトギスやウグイスの美声が響き、野生の猿まで間近に顔を見せてくれました。自然観察の楽しさ満開です！

3日目は妙高から長野県戸隠高原の森林植物園に向かいました。珍しいトガクシソウやズダヤクシユ、タチカメバソウ、アズマシヤクナゲ・・・等々。久しぶりの植物との再会は嬉しいものです。でも残念なことに植物名がなかなか出てきません。歳を感じざるを得ませんね。山を歩き、花を見てワクワクすればボケ防止になると信じていても??

戸隠はバードウォッチングの聖地でもあり、数多くの鳥の鳴き声やキツツキのドラミングも響いてまたまた自然を満喫！

ここ戸隠は在学中（60年前？）に植研部の合宿を行った場所であり、懐かしむメンバーも多く楽しいOB会の締めくくりの場となりました。

最後に名物の「戸隠そば」を堪能し、来年の再会を約し解散となりました。

なお、参加された河村信弘さん（6回生）の俳句を下記致します。

山菜の多彩越後の夏料理
大夏野猿の目線と合ひにけり
老鶯の声森林に飴せり
万緑や戸隠の峰天を突く
山若葉戸隠そばに舌鼓



第29回植物研究部OB会 新潟県妙高市 2025.5.21-23

左から河村信弘、新邦夫、久保田美恵子、北村久代、美崎陽子、若宮忠弘、馬場宏行、美崎英生、山田幸子、越智寿美子、秋山喜彦

静薬一〇期生同期会開催報告

森田俊夫

(昭和41年卒)

令和七年七月十三日(日)に名鉄グランドホテルで十三時から二時間開催しました。移動は大部分が新幹線等冷房の効いた車内であり熱中症の心配はないと思いき夏の開催にしました。出席者は十名でした。

受付に来たほとんどの人は「老化防止、認知症防止にと思ってきました」と言っていました。歩き方も問題なく、会費も躊躇することなく支払ってくれました。

簡単な開会の挨拶、鬼籍に入った三人に黙祷を捧げ雑談に入りました。少人数なので司会は無しにしました。大学時代の事、認知症、相続等が主な話題でした。本来話し合いたかったこれらの身の処し方についてはわずかしか話し合われませんでした、少々残念な気がします。しかし、各人それぞれの楽しさは感じたと思います。記念の集合写真を撮り閉会にしました。

その後、希望者で喫茶店に行き話し足りなかったことを話し合いました。

案内状の發送者 六十六名
案内状の返信者(届かなかった人) 十二名

欠席者(返事があった人) 三十七名

内 逝去者(家族からの連絡) 三名

内 協賛金を出してくれた人 一名

返事がなかった人 七名

出席者 十名

出席者が減ってきて残念です。



静薬10期生同期会 名鉄グランドホテル 2025年7月13日

大学だより

退職に際して

静岡県立大学 副学長 賀川 義之

(昭和58年卒)



2025年3月末に静岡県立大学を定年退職しました。長年にわたり、私のアカデミアでの活動をご支援いただきました皆様方に厚く御礼申し上げます。2005年4月に三重大学病院薬剤部から臨床薬剤学研究室の教授として赴任した後、2015年度からの4年間及び2021年度からの2年間の計6年間(3期)薬学部長を務めました。2024年度から理事兼副学長を拝命し、退職後(2025年8月現在)も引き続き法人理事兼副学長および特任教授として勤務しています。私なりに本学での20年を振り返ると、前半は薬学教育6年制の実施に伴う臨床教

育の立ち上げ、後半は薬学部創設100周年行事や大学運営に携わりました。まさに光陰矢のごとく20年が過ぎたという印象です。ここに機会を頂戴しましたので、私なりの想い出を書きたいと思います。本学での採用に際しては、教授職と併せて数年後に静岡県立総合病院の薬剤部長を兼務することのお話しを薬学部から内々にいただき、前職の業務経験が生かせると考えて応募しました。恩師からも病院薬剤部で臨床業務を継続できるならと応募への推薦をいただきました。しかし、着任してみると当時の県立総合病院薬剤部と薬学部との関係はあまり良好でなく、教授兼薬剤部長などとてもあり得る環境ではなく、結局実現することはありませんでした。また、薬学部の当初計画では薬学科80名全員の病院実務実習を県立総合病院だけで受け入れるというものでした。しかし、病院薬剤部との情報共有が十

分でなく、薬剤部と打合せしてみると、とても年間80名を受け入れる院内のスペースや薬剤部の人員に余裕はありませんでした。さらに、当初の計画では実務家教員が1年間を通じて病院実務実習を指導する体制(実習生20名×4期)となっており、実務家教員の研究時間がほとんど確保できない状況でした。大学教員を目指す薬剤師の目的は研究活動をしたいためであって、研究時間がほとんど確保できない環境では優秀な教員は集まりません。そのため、県立総合病院での実習受け入れ人数を削減し、残りの実習生は県内の病院で引き受けてもらうように変更すると共に、実習受け入れ時期を短かくすることで実務家教員の研究時間を確保するようにしました。この大幅な方針変更が大学側に承認されたのは、当時の奥直人薬学部長のご理解とご尽力による感謝しています。

薬局実務実習も含めて本学の学外での臨床実習は、当研究室と臨床薬効解析学、医薬品情報解析学研究室で分担していましたが、当研究室は最も歴史のある臨床系研究室であることから、臨床教育のリーダー役として臨床教育計画の立案や学外実習期間との交渉など他の研究室に比べて大きな負担を負うことになりました。そのため、当研究室の教員には、他の研究の教員に比べてより教育面での負担を強いることになり、研究時間を減らすことになりましたが、教室スタッフの自負と理解を得ながら本学の実務実習体制を維持することができました。当研究室のスタッフには感謝しています。研究面では、「臨床現場で出た問題点を薬学的アプローチで解決に導く」ことをモットーに、着任前より薬物治療モニタリング、特に薬物血中濃度と有害事象との関連性に取り組みました。ただ、実務家教員で研究業績の優れた人材が非常に少ないという実情もあり、私の研究テーマを押しつけるのではなく、教員の専門性を重視した上で、准教授以下には将来のプロモーションを見据えて教員自身の希望する研究をしてもらいました。そのため、当研究室の研究領域はかなり広くなり専門性という面で必ずしも深いレベルに達することはできませんでしたが、所属する研究室の教育重視の位置づけ上致し方ないと思っています。それでも本学での20年間に100報を超える英文原著論文を発表できたことに対し、共同研究者各位へ深く感謝する次第です。最後になりましたが、静薬学友会の皆様の益々のご健康とご健勝をお祈りいたします。これからも引き続き静岡県立大学薬学部をご支援いただきますようお願いいたします。

静岡県立大学での16年5か月の思い出

東邦大学医学部薬理講座・教授 森本達也



この度、静岡県立大学を退職するにあたり、これまでお世話になった皆様へ感謝を申し上げたいと思います。

私は木苗直秀学長のご指導の下、「地(知)の拠点整備事業(COC)」に採択され、「しずおか学」の開講に協力しました。「静岡の防災と医療」は平成26年度に新設し、令和7年度には500名を超える学生が受講する人気科目に成長しました。さらに「静岡の健康長寿を支える仕組みと人々」では、多職種講師によるオムニバス形式を導入しました。さらにアドバンス科目である「静岡救命連携演習」では薬学部生と他学部との合同演習やSGDを実施するなど、実践的かつ充実した教育を展開しました。

禁煙教育にも尽力しました。2016年から「日本禁煙アドバイザー育成講習会」を開始し、静岡県立総合病院に禁煙外来を設置。初級禁煙支援士の資格を取得した学生が医師や看護師、薬剤師と連携して服薬指導を行う体制を整えました。また、学内喫煙所の浮遊粒子濃度を測定し、重大な健康リスクを明らかにして学長へ報告した結果、敷地内全面禁煙という成果につながりました。学生教育と社会貢献が結びついた取り組みとして、強く印象に残っています。

地域連携では、モバイルファーマシーを活用した啓発活動や、市民向け健康測定会を学生主体で実施しました。AHA・BLSプロバイダー資格取得コースを開講し、救命スキルの習得機会を提供しました。薬剤師教育では心電図や血圧測定などフィジカルアセスメントを取り入れ、令和6年度から臨床検査技師OSCEにも発展させまし

た。国際交流では薬食国際カンファレンスの運営に加え、コロナ禍にはインドネシア・バンドン工科大学とWEB形式の「バンドンー静岡食薬カンファレンス」を立ち上げ、学部間協定の締結へと結実しました。

研究面では、心不全治療薬の開発を目指し、心筋細胞核内シグナルの研究を進めました。特にヒストンAセチル化酵素P300が重要な治療標的となることを示し、その阻害作用を持つクルクミンが心不全治療に有効である可能性を見出しました。本学着任後は構造活性相関研究やDDS技術による高吸収剤の開発に取り組み、ヒト臨床試験でも心不全に治療効果のあることを確認しました。さらにノビレチンがP300活性を調節して心機能改善に寄与する可能性を見出し、故・菅敏幸

教授の合成ノビレチンのご提供により研究を深めることができました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。ご冥福をお祈りいたします。

また、心臓抽出タンパク質からP300やGATA4複合体を精製・質量分析し、これらの複合体が時間的・空間的に変化し、転写活性を正にも負にも制御し、心不全に関与することを見

出しております。また、産学連携研究も行い、多くの論文発表にもつながりました。

2019年には学内に臨床研究施設を設立し、その後は臨床研究センターへ発展させ、産学連携や地域連携を推進する拠点としました。また「アドバンスト実習ー地域医療」として川根本町での実習を開始し、薬剤師の地域偏在解消に貢献する教育体制づくりに努めました。

在職中は県や市の委員も務め、行政の現場から学ぶ機会をいただきました。静岡には同級生も多く、年2回の同窓会を通じて交流を深められたことも大切な思い出です。

この9月からは東邦大学医学部薬理学講座に異動いたします。本学で培った教育・研究・地域貢献の経験を新天地でも活かし、より一層精進していく所存です。これまで支えてくださった教職員、学生、卒業生、そして静薬学友会の皆様にご心より御礼申し上げます。静岡で過ごした16年5か月は、私にとってかけがえのない財産であり、今後大切にしていきたいと思います。本当にありがとうございました。

新任挨拶

教育・研究・臨床をつなぐ新たな一歩

臨床薬剤学分野 教授 辻 大樹



2025年4月付で臨床薬剤学分野の教授を拝命いたしました辻 大樹と申します。ご挨拶する機会をいただきました静薬学友会の皆様にご場をお借りして御礼申し上げます。

私は浜松市に生まれ、大学時代および社会人としての一時期を除き、静岡県民として過ごしてまいりました。この度、伝統ある本学薬学部において教授職を拝命し、大変光栄に思うと同時に、身の引き締まる思いで日々を過ごしております。私は明治薬科大学を卒業後、同大学大学院にて臨床薬学を専攻し、博士前期課程を修了しました。当時としては珍しい臨床系の大学院で

あり、在学中は東京慈恵会医科大学附属第三病院での臨床研修および臨床研究に励み、並木徳之先生（前実践薬学分野教授）にご指導を賜りました。臨床薬学の黎明期にあつたその頃、実臨床の場で患者さんに向き合いながら学んだ経験は、今なお私の教育観・研究観の根幹となっております。その後、聖隷浜松病院をはじめとする関連医療機関で10年にわたり、薬剤師として医療現場に携わりました。聖隷浜松病院では、総合診療内科部長であった山田浩先生（前医薬品情報解析学分野教授）のご指導のもと、研修医や若手医師と共に教育を受ける機会にも恵まれました。また、病棟部門や外来化学療法部門の責任者を務め、チーム医療の一員として多くのがん患者さんと向き合ってきました。そのなかで、薬剤師として何ができるのか、何をすべきかを常に考え、実務に取り組んでまいりました。

た。こうした臨床経験を通じて、薬物治療をよりよいものとすることを目的とした臨床研究に関心を抱き、臨床研究にも取り組んでまいりました。また、院内での委員会活動では、当時、聖隷浜松病院で顧問を務められていた中野眞汎先生（臨床薬剤学分野初代教授）とも一緒に仕事をさせていただきました。2009年より、伊藤邦彦先生が主宰される本学の臨床薬効解析学分野に助教として着任し、同分野に籍を置きながら教育・研究活動に従事してまいりました。本学では静岡県立総合病院内に臨床薬学教育・研究センターが設置されており、私はそこで5年次の病院実習を担当し、薬剤部の先生方と共に医療現場での臨床教育に尽力いたしました。研究面では、長年病院に籍を置いてきた経験を活かし、臨床の現場で得た疑問を出発点として、抗がん薬の副作用対策や支持療法の個別化を目指したファーマコゲノミクス研究などを中心に、全国のがん専門薬剤師の方々と連携した多機関共同研究を継続して進めております。学生時代から現在に至るまで、多くの尊敬すべき先生方や情熱あふれる仲間にも恵まれ、それらのご縁が私の歩みを支え、今の私をかたちづくってくれたことに深く感謝しております。

2006年の薬学教育6年制の導入が大きな転機となり、当研究室はその流れのなかで誕生したと認識しております。医療の高度化・専門化が進むなかで、薬剤師に求められる役割は刻々と大きく変化し続けています。6年制教育によって高度な専門知識と実践力を持った薬剤師を育成する体制が整えられました。その本質的な改革の定着には今なお課題が残されていると感じています。教育とは単なる知識伝達に留まらず、学生が「なぜ学ぶのか」を自ら考え、主体的に行動する力を育む営みであると考えています。今後は医療現場の問題解決に直結する実践的な臨床研究を、卒業生の皆さんとも一緒に取り組み、エビデンス構築に貢献していきたいと考えています。中野眞汎先生が立ち上げ、賀川義之先生が20年間にわたり築き上げられた当研究室の伝統と実績を尊重し、その精神を継承しながら、研究室のさらなる発展に向けて尽力する所存です。また、学部全体のさらなる発展にも寄与できるよう、一層精進いたします。

結びとなりますが、静薬学友会の皆様には、今後とも温かいご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

静岡から生命観を問う

統合生理学分野 准教授 土谷 正樹



私は、東京工業大学を卒業し、同大学院修士課程を修了後、持田製薬株式会社に入社しました。その後、京都大学大学院で博士号を取得しました。京都大学 助教(青藍プログラム)とJST さきがけ研究員を勤め、現職に至ります。アカデミア研究・教育および企業での研究・薬事申請業務などに従事し、研究分野ではペプチド化学合成、代謝生物学、遺伝子スクリーニング、ケミカルバイオロジーなどに携わってきました。学術活動としては、分子レベルでの生物学的疑問の解明および工学的な技術開発に取り組んできました。

現在、着任して2年になるうかという時期で、私自身の薬学の理解が少しずつ深まりつつあります。薬が働くことの大前提として、生命のメカニズムが存在し、教科書のなかでは揺るぎな

い正しい姿として記述されています。一方で、私が興味を持っている物質代謝の観点から眺めると、生命を形づくる生体分子の多くは外界からの化学物質(栄養素)に由来し、必ずしも教科書で定義されるような代謝物の化学構造で有っても無くても構わない気がしてきます。私は、この仮説の検証を通じて、代謝物構造の生物学的な意義の解明や、人工代謝物を介して生体機能を変える創薬モダリティの創出を目指します。

私は、当たり前のように捉えられている生命現象・分子機構に疑問を持ち自身の考えを検証することで、リサーチマインドが育まれていくと信じています。この信念のもと、静岡の地で大衆教育・研究に励み、本学学生の成長に貢献していきたいと考えます。最後になりますが、静薬学友会の皆様には、ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

編集部の不手際により、前号にご執筆いただく必要がなかったことをご詫言申し上げます。

編集部

新任のご挨拶

生化学分野 助教 塚本 庸平



令和七年四月一日付で、生化学分野の助教として着任いたしました塚本庸平と申します。静薬学友会の諸先生方、並びに会員の皆様におかれましてはこの場をお借りして、ご挨拶を申し上げます。

私は愛知県出身で、愛知県立刈谷高等学校を卒業後、同志社大学生命医科学部にて学士(理学)を、名古屋大学大学院医学系研究科にて修士(医科学)と博士(医学)を取得いたしました。名古屋大学においては質量分析を用いた糖鎖修飾の構造解析や糖鎖修飾の機能解析を岡島徹也教授と、当時准教授であった竹内英之現本学教授のもとで行いました。大変ありがたいことに自分の研究テーマであるN-glycan受容体の細胞外領域に付加する非典型O-結合型糖鎖修飾の解析のみならず、共同研究や他の構成員の研究にも関わら

せていただき、タンパク質上のN-結合型糖鎖修飾や典型のO-結合型糖鎖修飾の解析やプロテオミクスなど様々な経験をさせていただくことで、糖鎖研究の奥深さと楽しさを学びました。また、この時の御縁で、学位取得後、助教をしないかと竹内教授にお声がけいただき、私は本学に着任することになりました。糖鎖修飾は糖の構成や結合様式など非常に複雑なうえ、直接的な情報を取得できる質量分析データの解析も難航することが多いのですが、様々な情報を組み合わせ、一つ一つ構造や機能を明らかにすることに何よりの楽しみを見出しております。これまでに培った糖鎖解析やプロテオミクスの技術を生化学分野のみならず様々な分野の研究の進展に生かして行きたいと考えております。

経験が浅く至らぬ点が多々あるとは思いますが、静岡県立大学薬学部、並びに静薬学友会の更なる発展に貢献できよう、直向きに邁進する所存でございます。皆様のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

研究室だより

生化学分野

生化学分野では、核酸やタンパク質と並ぶ第三の生命鎖である糖鎖の機能解明と創薬応用を目指し、Notchシグナル、ウイルス、神経をキーワードに竹内英之教授の統括の下、高橋忠伸准教授、紅林佑希助教、2025年4月より着任された塚本庸平助教がそれぞれ研究室を担当し、研究を進めています。また、異分野融合研究の革新的な展開を図るため、名古屋大学の岡島徹也教授、順天堂大学薬学部の南彰教授、本学客員教授の池田潔博士（1979年静岡薬大卒）をはじめ、国内外の先生方との共同研究を推進しています。現在、当分野は大学院博士前期課程2年3名、同1年1名、学部6年3名・同5年5名・同4年7名の計19名の学生が所属しています。

学生は精力的に研究や勉学に取り組み、学会において多くの賞を受賞しました。ここ1年間の受賞は、第39回老化促進モデルマウス学会学術大会（上杉尚輝さん）、第43回日本糖質学会年会（旗祥太さん）、第23回次世代を担う若手フアーマ・バイオフォーラム（成道豊さん）、糖鎖科学中部拠点第20回若手の力フォーラム（若林佳輝さん）、日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会2024（松本歩さん）、日本薬学会第145年会（鈴木乾矢さん、長屋美紗貴さん、深澤花菜さん、藤田優貴さん）、第89回日本生化学会中部支部例会・シンポジウム（藤田優貴さん）、第71回日本薬学会東海支部大会（上杉尚輝さん）、静岡県立大学領域別優秀賞（成道豊さん、若林佳輝さん）です。さらに、紅林佑希助教が2025年10月2日の第44回日本糖質学会年会にて日本糖質学会奨励賞を授与されます。研究室においてもOB・OG会や研究室旅行を再開しました。

その他、最近の研究内容や成果、トピックスについては、当研究室のホームページ (<https://w3pharmu-shizuoka-ken.ac.jp/~biochem/index.html>) でご覧頂けます。また、生化学分野同門生が集まるOB・OG LINEグループがあり、情報交換を行っています。加入を希望される同門生の方はご連絡ください。



2025年4月 集合写真

衛生分子毒性学分野

衛生分子毒性学分野は、吉成浩一教授の2014年の着任から12年目を迎えました。本年4月には志津先生が准教授に昇任され、現在は吉成教授、志津准教授、大岡助教の3名の教員と、学生・研究補助スタッフの皆さんとで研究室を運営しています。

当分野では「化学物質からヒトを衛る」をメインテーマに掲げ、化学物質による毒性発現機序や感受性要因の解明、さらに予測法の開発を目指しています。実験動物や細胞を用いたウェットな実験から、コンピュータによるドライ解析まで幅広いアプローチで研究を進めています。学生は、週1回の研究室セミナーでの発表を通じてプレゼンテーション能力を磨き、月1回のグループミーティングでは、教員と各研究グループが研究内容を深く議論し、相互理解を深めています。

学生の日々の努力と共同研究者・関係者の皆様のご協力により、毎年、原著論文や国内外学会での発表を行っています。昨年度は、吉成浩一教授が大会長を務めた第7回医薬品毒性機序研究会をグランシップにて開催し、研究室全員で運営を支えました。

研究の合間には、お花見やボウリング大会、懇親会などを通じて親睦を深めています。2025年9月には、研究室開始10周年と吉成教授の日本毒性学会学会賞受賞を記念し、OB・OG

をお招きして同門会兼祝賀会を開催予定です。研究成果や学会活動、イベントの様子は、研究室ホームページに随時掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

末筆ながら、静薬学友会の皆様には今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



2025年3月 卒業生と

薬理学分野

現在、薬理学教室には、教員4名、秘書1名、博士前期課程7名、学部学生(4~6年生)14名が所属しており、日々、研究に取り組んでいます。

当研究室では、血糖調節において中心的な役割を担っている膵β細胞、脂肪肝などにおける肝線維化の責任細胞である肝星細胞を主な研究対象とし、糖尿病や肝線維症の病態解明および治療・診断法開発を指向した基礎研究を展開しています。世の中に貢献できる研究成果を輩出するべく、今後もユニークな薬理研究を推進していく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

一同門生へのお知らせ

2026年3月をもちまして石川智久先生がご退官されます。長年のご指導・ご功績に深く敬意を表するとともに、今後のご健勝を願いまして、一同門生一同による祝賀会を2026年2月22日(日)に開催いたします。詳細は、後日、案内いたします。また、薬理学教室のHPにもあわせて掲載いたします。出欠のご回答をお願いいたします。ご多忙とは存じますが、万障お繰り合わせのうえ、ご出席賜りますようお願い申し上げます。

受賞

昨年度は、鈴木健資さん(当時M1)の第150回日本薬理学会関東部会で優秀発表賞、山口桃生先生の2024年度

日本薬学会東海支部学術奨励賞に続き、杉森仁泰さん(当時M1)がThe 5th Bandung-shizuoka Food and Pharma conferenceのBest Presentation Awardを、鈴木健資さん(当時M1)が生体機能と創薬シンポジウム2024で優秀発表および静岡実験動物研究会で林榮一賞を、小寺聡史朗さん(当時D3)が第47回日本日本分子生物学会年会でMBSJ-EMBO Poster Awardを、小谷優妃さん(当時B4)が第34回日本循環薬理学会学術集会でYIA賞を、岡部磨幸さん(当時B6)が日本薬学会第145年会で学生優秀発表賞を受賞しました。今年度は、梅田宗一郎さん(現B5)が第152回日本薬理学会関東部会で優秀発表賞を受賞しています。

近くにお立ち寄りください。



2025年8月8日 研究室BBQ

医薬生命化学分野

医薬生命化学教室では、「薬物送達学の力でくすりを創る」ことを最終目標に掲げ、がん、脳梗塞、腎疾患などを対象とした研究を展開しています。特にナノテクノロジーを基盤とするドラッグデリバリーシステム(DDS)の開発に注力し、基礎から臨床応用に至る幅広い研究を推進しています。現在、

当分野は大学院博士後期課程3年1名・2年1名・1年2名、大学院博士前期課程2年3名・1年4名、学部6年3名・5年3名・4年7名の計24名の学生が所属し、教員、研究補助員を併せて計36人体制で研究室を運営しています。最近の出来事としては、2024年度の研究室対抗ソフトボール大会では、「目指せ1勝」を目標に臨み、見事2回戦まで進出しました。2025年度の研究室対抗バドミントン大会では、ソフトボール大会での経験を活かし、研究室一丸となって臨んだ結果、見事準優勝を果たしました。研究では、山口留帆さんが第45回生体膜と薬物の相互作用シンポジウムにて「優秀発表賞」を受賞しました。渡邊翠さんが第40回日本DDS学会学術集會にて「優秀発表賞」を受賞しました。又吉克樹君が日本生化学会中部支部にて「奨励賞」を受賞

しました。佐藤慶次朗君が日本薬学会第144年會にて「優秀発表賞」を受賞しました。齋藤海斗君と渡邊翠さんが高分子進化学第2回シンポジウムにて「優秀ポスター賞」を受賞しました。教室員一同は、運動を楽しみながら、切磋琢磨して日々の研究に励んでいます。最近の教室の活動状況はホームページに掲載しておりますので是非ご覧下さい(<https://w3pharm.u-shizuoka-ken.ac.jp/~radio/bio/>)。



2024年11月28日 医薬生命化学教室集合写真

身体運動科学分野

本学に赴任し身体運動科学分野を担当して11年目を迎えました。担当科目では、私の専門分野である健康管理学や健康運動心理学の観点を活かした授業を行っています。また研究室としては、健康の維持・増進を図り、社会環境と良好な関係を構築する上で必要な知識・スキルの習得や、運動実践による心理的効果などに関する調査研究及び教育を行っています。

私は、本学全体での身体運動科学の通年17.5本の授業運営に加え、体育関連の用具・施設の管理、非常勤講師のコーディネート、体育会部活動活性化のための支援活動なども一手に担当しております。

大学における体育授業は、身体活動を習慣化する最後の機会となります。日々の授業では、運動技術の習得のみならず、体育を一つのツールとして、学生が自信やライフスキルを身に付けられるような実践を行っています。授業の内容や進め方を工夫することで、体力向上・技術習得はもちろん、メンタルヘルス改善の効果も期待できます。また、特に1年次における体育授業は「仲間づくり」の場にもなり、大学生活への適応や良好な人間関係の構築のためにも必要不可欠な科目です。

ここ数年では、テニスコートの修繕や新たな部活動設立支援のほか、各施設の利用者説明会開催、施設毎に使用

上の注意看板を作成することで、本学施設をより気持ちよく利用していただけるよう貢献して参りました。また夏期には、トランポリンやスケートボード、乗馬、ゴルフなどの新しいスポーツ種目を体験できる機会を設けました。このような新しい取り組みを通じて、本学の学生・先生方に身体運動科学の考え方を広げられたと感じています。

身体運動科学分野は、今後よりよい授業作りはもちろん、積極的なスポーツ環境整備に継続的に取り組むことで、地域に貢献し未来を担う学生が本学から羽ばたいてゆける環境づくりに努めて参ります。今後とも変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願いいたします。



テニス授業集合写真 (2025年7月撮影)

生体機能分子分析学分野

当分野は今年度も轟木教授、兒島准教授、古庄助教の3人体制で、学生と毎日精力的に研究に励んでいます。また、名誉教授の豊岡先生、客員教授の水野先生、客員准教授の杉山先生にも研究面でご支援をいただいています。

当研究室の主な研究テーマは、次世代バイオ医薬品の新規分析法の開発、迅速・高感度な核酸増幅検査法の開発、光学活性物質の高感度分離分析法の開発、単一細胞メタボロミクスのための新規分析法の開発です。

研究を支えてくれている学生諸君は、日々切磋琢磨しながら高いモチベーションで研究を行っています。

本年度は4年8名(うち外研生1名)、5年生7名、6年生3名、修士2年3名、博士後期課程2名の計23名の学生が所属しています。

得られた研究成果は専門誌への論文掲載のみならず、積極的に学会発表を行い、昨年度は優秀発表賞受賞3件など学生個人としても高く評価されました。また、当分野出身で昨年度社会人博士号を取得された山田朋宏さんが学長賞ならびに成績優秀者賞を受賞されました。研究以外の活動にも励

んでおり、学内のバドミントン大会やソフトボール大会などにも精を出しております。

昨年度の修了・卒業生は、大塚製薬、杏林堂、大鵬薬品工業、日本能率協会コンサルティング、ファイザーファーマ、他大学への進学を選択し、各々の道で活躍しています。詳しい研究内容、研究室行事、学生の活躍等は、研究室HPでご覧いただけます。

最後になりますが、静薬学友会の皆様には変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



2025年4月 芝生公園にて

医薬品製造化学分野

「科学」における「化学」の最大の特徴は「ものづくり」、すなわち「この世にないものを作り出せる」点です。わたしたちは、「元素・結合・反応場の特性を活用する反応性開拓を土台として、創薬科学や生命科学に資する次世代分子設計基盤の構築を目標としています。特に、独自の設計による有機反応開発、実験と計算化学の両輪による分子機構の理解、生命科学・物質科学に波及する分子機能創製などを取り入れた研究展開を目指します。独自の重水素化プロセスなどを基盤とする脂質・脂肪酸の分子化学や様々な選択的官能基化反応などを通じて薬学分野における重要な課題に取り組んでいます。

2025年3月に1名の修士課程修了生、2名の薬学科学部生、1名の薬科学科学部生が社会へと羽ばたきました。また大内仁志助教が企業へのご栄転されました。2025年度は博士課程1名、修士課程4名、学部生15名という構成で活動しています。スタッフは滝田に加え、吉村文彦准教授、近藤健助教というメンバーで活動しています。

「何事にも全力で」をモットーに、研究活動とそれ以外の活動もいずれも一生懸命やっております。日々、各自が良く考え、



2025年5月 集合写真

ディスカッションを大事にしながら研究活動を行なっています。まだ若い研究室ですが、学会発表や論文発表に關して積極的に取り組むなど、努力が実るよう精進しています。研究活動以外にもソフトボール大会、バドミントン大会への参加や、研究室でのいろんなイベントの企画を通じて、チームとしての強化を図っています。成長することを第一に、文武両道ではなく、「文武一道」を目指して活動しています。

引き続き、わたしたちは楽しみながら成長すべく、日々の研究活動やその他のイベントにおいて「何事にも全力で」取り組む所存です。皆様より一層のご支援・ご指導を賜りましたら幸甚に存じます。

生薬学分野

生薬学分野では、渡辺賢二教授を中心として、天然物生合成メカニズム解明および医薬農薬となりうる活性物質の探索に取り組んでいます。佐藤道大准教授、岸本真治講師、渡邊正悟助教、博士研究員6名が中心となって各研究を進めております。当分野では現在、基礎研究のみならず、静岡県立大学発ベンチャーとして我々が設立した株式会社アデノプリベント（静岡ラボ社員2名）をはじめ他分野の先生方との共同研究により、大腸がん原因物質であるコリバクチンの

検出、さらにはコリバクチン産生菌の検出法の開発にも取り組んでおります。現在、当分野は大学院博士後期課程3年1名（中国からの留学生）、2年3名（中国からの留学生2名）、大学院博士前期課程2年4名、1年生5名、学部6年



2025年3月 学位記伝達式の後で

3名・5年2名・4年7名の計25名の学生、博士研究員の永翁さん、青木君、株式会社アデノプリベント社員の周博士と山本博士が所属しています。

本年度も元氣いっぱい研究に取り組み多くの論文を発表しています。学生は精力的に研究や勉学に取り組み、多くの賞を受賞しています。 <https://web.u-shizuoka-ken.ac.jp/~kenji55-lab/>

末筆ながら、静薬学友会の皆様には変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

薬剤学分野

現在、薬剤学分野は、教員3名（尾上 誠良 教授、佐藤 秀行 准教授、山田 幸平 助教）、大学院生博士課程4名（留学生2名）、修士課程8名（留学生1名）、学部生13名のメンバーで研究・教育活動に邁進しております。当分野における教育・研究活動の成果や各種イベント等に関しては、Webサイト (<https://w3pharm.u-shizuoka-ken.ac.jp/yakuzai/>)にてタイムリーに報告しておりますので、定期的にご覧頂けますと幸いです。

クスリを逆から読むと「リスク」(Risk)となりますが、実際に薬効と副作用は表裏一体で、どのようなクスリでも副作用は発生してしまいます。そこで私たちは投薬後のクスリが体内でどのように動くのか詳細に把握し、そのクスリの体内動態制御による薬効改善・副作用回避を目指して次のような研究を推進しています。

(1)薬物動態制御による副作用の回避、(2)ナノテクノロジーや物性制御を利用した薬物動態・薬効の改善、(3)病態下の薬物動態変化解析とその戦略的な回避方法探索、(4)薬物の物性・動態情報からの副作用リスク予測。



新年度のお花見パーティ時に芝生公園で撮影 (2025年4月4日)

本研究室出身者は、薬剤学に関する基礎研究から臨床研究まで視野にいたれた幅広い経験を活かし、医療機関、製薬・食品企業、行政機関や教育機関など様々な分野で活躍されています。今後、も研究活動を通じて薬の専門家としての研究技能・知識とコミュニケーション能力を併せ持つ薬科学者を育成し、変化し続ける社会のなかでリーダーシップを発揮できる人材を輩出できるように邁進して参ります。今後とも皆様からのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

創剤科学分野

本年度、創剤科学分野（創剤工学講座）に所属するメンバーは、36名になります。近年、AIを活用して製剤学的事象を説明する取り組みが進んでいます。従来、経験則に頼っていた部分も多く、AIの利用は有効である一方で、製剤学の理論をブラックボックス化してしまう恐れがあります。再現性・予測性のある新規製剤技術を確立するうえで、製剤学的事象を理論的・定量的に捉えることができる人材の育成は必須であると考えています。当分野では、「モノづくり」に繋がる理論を構築しよう」をキーワードに、学生一人一人

が考え、仮説を立て、検証するサイクルを繰り返すことで課題提案と課題解決を両立する思考回路の醸成に取り組んでいます。製剤学はユーザーに最も近い薬学特有の学問領域の一つです。「自分が創った製剤を大切な人に自信を持って投与することができまスカ」を常に問いながらメンバー一同、研究活動を進めています。

現在、当分野では、粉体工学に関する研究に加え、ナノファイバー技術を利用した新規製剤開発、レオロジー解析に基づく製剤設計、錠剤コーティング膜特性の理論的考察、生分解性ポリマーを利用した機能性粒子の検討、などの研究課題に取り組んでいます。



2025年8月 研究室旅行で訪問した鳴沢氷穴にて

研究活動を通して薬学の楽しさを経験するとともに、大学生の時にしかできないことにチャレンジしてほしいと考えています。ゼミを毎週火・水・木の朝に開催し、午前中から研究活動に集中できるようにする一方で、夕方以降はフリーとし、学生に有効的な時間の使い方を考えさせる環境を提供しています。また、今年より研究室旅行を再開しました。学生と教員間のコミュニケーションの更なる活性化に繋がっています。研究・教育活動を通して薬を創る（研究者）および薬を扱う（薬剤師）役割を担う人材育成に継続して努めて参ります。引き続き、ご支援・ご指導のほど宜しくお願いします。

分子病態学分野

分子病態学分野は森本達也先生が2009年に教授に就任してから今年で16年目になります。森本達也教授、刀坂泰史准教授、砂川陽一講師の教員3名、事務員1名、大学院生5名(博士2名、修士3名)、学部生14名にて、研究や学術集会主催など、日々慌ただしく過ごしております。

当研究室では、心血管疾患の創薬を目指し「心不全発症に関わる心筋細胞内シグナル伝達機構の解析」をテーマに研究を行っています。最近1年間に研究を行って来ますと、刀坂先生が准教授に昇進しました。また刀坂先生の研究成果がJournal of Biomedical Science、砂川先生と卒業生の岩清水苑香さんの研究成果がJournal of Pharmacological Sciencesに掲載されました。また、学会発表では、第151回日本薬理学会関東部会では修士2年の鈴木悠斗さん、博士3年の川瀬裕斗さんが優秀賞、第34回日本循環薬理学会では学部5年の品川統也さんが優秀発表賞等を受賞しました。

本年度も8月に研究室旅行を



2024年度 研究室集合写真(卒業式)

企画し、様々な体験を行うことで研究室の連帯感の醸成につながりました。研究室の様子は研究室ホームページ等で随時公開しておりますので、是非覗いてみてください。

最後になりますが、静薬学友会の皆様には今後も変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

生体情報薬理学分野

生体情報薬理学分野は、担当科目である臨床検査学と薬物療法学と研究内容に合わせて2025年4月より名称を変更しました。生体情報を定量解析し、統合的に薬の作用機序を解析するという講座のスタイルにより近い名称となりました。昨年度末に坂本准教授が国際医療福祉大学薬学部教授として栄転され、今年度はD3名M5名学部10名、黒川教授、児玉助教(10月から講師)、清水助教、渡邊客員教授と吉澤秘書の総勢23名で活動しています。心機一転、今後ともどうぞよろしくお願ひします。研究内容は、循環器病に関わる炎症や敗血症性障害の性差機構解析およびHit iPS由来心筋の創薬応用に絞られました。1年間を振り返って来ますと、昨年末にはグラシップにて第34回日本循環器学会を主催し、卒業生の方からもご支援いただき、おかげさまで大変盛況となりました。研究室員(敬称略)の受賞としては、7月の日本毒性学会(優秀研究発表賞・清水助教)、バンドン工科大学とのカンファレンス(D1若林聖士)、次世代薬理シンポジウム(5年

新津宗馬)、東海電気研究会(M2佐藤隆至)、生理研究会(D1若林聖士、M2佐藤隆至)、日本循環薬理学会(M2佐藤隆至、5年太田晶仁)、APPW2025(清水助教、若林聖士、佐藤隆至)にて表彰されました。恒例の畑作りや芋掘りもしっかりと先輩から後輩に引き継がれています。最近、他の研究室にも波及しているようです。今後とも、皆様からのご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



4月 芝生園地にて

臨床薬剤学分野

臨床薬剤学分野は、学部運営上、薬局管理学も含めて活動しております。研究インフラは、草薙キャンパスと静岡県立総合病院内にあります。地方自治体が設立した病院内に薬学部の研究室を設置するのは極めて珍しく、これまで内外から注目されてきました。

昨年度まで当分野を主宰されていた賀川義之教授は3月末で退官され、今年度から辻大樹教授が研究室を主宰しております。その他の教員構成としては、内野智信准教授、横山匡講師、そして、薬局管理学分野の谷澤康玄助教の合計4名です。

教育面の実習関係では、6年制課程の病院・実務実習(5年次)を担当しています。本学では、病院内に専任教員を配置して教員主導型の臨床教育を行う米国型薬剤師養成教育を行っており、当分野はその中核を担い、内野准教授、横山講師が病院実習に携わっています。一方、薬局実務実習は谷澤助教が担当しています。また、これまで賀川教授が行ってきた病院・薬局実務実習の統括は辻教授が引き継いでいます。講義では、早期体験学習、医薬品安全性学、薬学と社会Ⅰ、医薬品情報学



2025年4月4日撮影

Ⅰ、薬学と社会Ⅱ、調剤学、薬物治療学特論等を担当しています。

研究面では、これまで臨床現場の問題点を臨床薬物動態学、臨床薬理学、および臨床製剤学的なアプローチで解決する研究を行ってきました。さらに今年度からは辻教授の専門である薬理遺伝学的なアプローチも加わっていく予定です。

当分野は今年度変革の時を迎えましたが、学生、大学院生および教員が丸となって粘り強く、かつ質の高い薬学研究を通して薬物治療成績の向上に取り組んでいます。これからも、当分野は臨床薬学研究で社会に貢献できる卒業生、修了生を輩出できるように精進していきたいと思えます。

臨床薬効解析学分野

臨床薬効解析学分野は2005年に開設され、本年度20年目の節目を迎えます。現在は教員3名、大学院生3名、学部生19名の総勢25名で基礎研究と臨床研究の橋渡し研究に取り組んでいます。臨床薬効解析学分野では「医療現場からシーズを見つけて研究を展開し、その成果を現場や社会に還元することを目指して、多種多様な研究を展開しています。なお報告として、これまで当分野の教育・研究に多大なご尽力をいただいていた辻大樹先生が、臨床薬剤学の教授にご栄転されました。今後のさらなるご活躍をお祈りいたします。

当分野は2017年に静岡県立総合病院内に新設された先端医学棟にも研究室が設置されています。このブランチ研究室を拠点として、静岡県立総合病院をはじめ、県内外の医療機関等と連携し、臨床的な課題を解決することを目的とした共同研究を進めています。昨年は、博士課程修了生の宮城壮裕さんおよび修士課程修了生の新船怜さんの2名が、第62回日本癌治療学会学術集会にてMedical Staff Awardを受賞するなど、日々の研究成果を積極的に学会で発表し、高い評価を受けました。

教育面では、学部、大学院科目の講義の他、県立総合病院における実務実習指導という重要な役割を担っており、



2025年4月 研究室の花見にて

薬学教育モデル・コアカリキュラム(平成25年度改訂版)に対応した実務実習の遂行により、実習がより充実したものとできるよう日々取り組んでいます。研究内容や研究成果、研究室行事などは当研究室のホームページやFacebookに随時公開していますので是非ご覧ください。これからも精力的に研究活動を行いつつ、充実した研究室生活を過ごせるよう努めてまいります。静岡にお越しの際は研究室にお立ち寄りください。教室員一同、卒業生の皆さまに会えることを楽しみにしています。

実践薬学分野

実践薬学分野は、患者さんと医療スタッフから信頼され、患者ベネフィットを追求できる人材育成を目指しています。様々な薬物の血中濃度と効果の関係を解析し最適な薬物治療を提供するための研究、ミニタブレットやフォーラムといった製剤開発研究、臨床の薬剤師業務から見つかる問題解決を目指した実務実践研究を行っています。本研究室のモットーは「屋根瓦方式」であり、在学生だけでなく、学部卒業生、社会人大学院生とその卒業生が協力しあって一緒に研究室を盛り上げていきます。また実践薬学セミナーを毎年開催し、在校生による研究発表や講演会を行っており、本年度も9月に開催を予定しています。

2025年の春に研究室に大きな変化がありました。柏倉康治先生が2025年4月より帝京大学の教授として栄転されました。また研究室メンバーとして新たに社会人大学院生2名を迎え合計5名の博士課程の大学院生と学部生で研究室をさらに盛り上げていきたいと思えます。2024及び2025年にはアリゾナ大学より短期間ではあります但し研究室に留学生を迎え、お互いに交流を深めました。さらに今後の研究室行事としてホ



2025年3月に実践薬学分野卒業祝賀会と柏倉康治教授就任のお祝いを行いました

テルでの食事会や伊豆での研修旅行を計画しています。今後の研究室行事を通じて、お互いの親睦をさらに深めることができることを期待しています。さらに学生は勉学や研究にも励んでおり、日本薬学会や日本薬剤学会、日本TDM学会で口頭又はポスター発表により研究成果を発表しました。今後日本医療薬学会年会での学生による研究成果発表を予定しています。今後も研究室へのご支援ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

医薬品化学分野

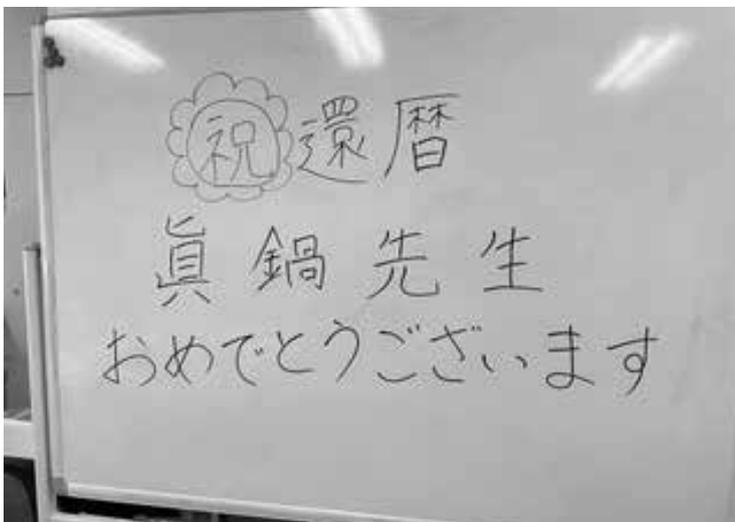
医薬品化学分野では「安全かつ簡便な有機合成法を実現する化学の開拓」を目指して、さまざまな有機化学研究を行っています。今後も引き続き頑張つて、これまでの研究をさらに発展させていきたいと思っております。

この一年間での大きなニュースとしては、山口深雪助教が二〇二五年度日本薬学会女性薬学研究者奨励賞を受賞しました。この賞は「薬学の基礎および応用に関し優れた研究成果をあげた女性研究者でこれからも高い研究成果をあげることで薬学研究の発展に寄与するとともにキャリアアップが期待される女性研究者」に対して表彰されるものです。受賞式および受賞講演は二〇二五年三月の日本薬学会年会（福岡）で行われました。山口助教の「触媒による反応の位置選択性制御を活用した多置換化合物類の合成法開発」に関する研究が高く評価された結果であり、たいへん嬉しく思っています。またこれまで研究に参加してきた多くの学生にも感謝します。

また二〇二五年三月には、当研究室としては初めて薬学専攻博士課程の修了生を輩出することができました。本人もよく頑張ったと思いますし、研究室としても嬉しい出来事となりました。

教授の眞鍋は今年、無事に(?)還暦を迎えることができました。誕生日には学生たちがサプライズでプレゼントと花束を用意してくれました。思えば県大に赴任した時はまだ四十代半ばでしたので、かなりの年月が経っているのですが、あつという間に過ぎてほとんど何も成し遂げていない気がします。定年までの限られた時を大切に、これまでの研究をしっかり現実させるとともに、新たな研究の種をまくべく、決意を新たにしております。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



学生メッセージ。

生命物理化学分野

静岡県内でも40℃を超える危険な暑さが続く中、今年も恒例の「研究室だより」をお届けする季節となりました。2024年10月からの研究室の様子をご紹介します前に、昨年ご紹介できなかった「合同セミナー」について触れておきます。2024年8月26～27日、草薙キャンパス13411講義室にて合同セミナーを開催し、懇親会は、はばたき棟地下の下食をお借りして行いました。県大薬、東大薬、神戸大医、阪大微研、慶應薬、J-PARCから総勢36名が参加し、活発な議論と交流で充実した二日間となりました。

さて、ここからは昨年10月以降の研究室の様子をお知らせいたします。10月上旬、薬学科3年生6名が新たに加わりました。11月26日には薬学科6年生7名が卒業研究発表を行い、2025年1月31日には薬科学科4年生2名が卒業研究発表、薬学科4年生5名が卒業研究の中間発表を行いました。3月19日には、例年通り、グランシップと草薙キャンパス大講堂にて学位授与式を行い、薬科学科4年生2名は大学院博士前期課程へ進学、薬学科6年生7名は社会へと羽ばたいていきました。4月からは、博士課程の大学院生1名、他大学からの進学者を含む博士前期課程の大学院生3名、学部生17名の体制で2025年度の研究活動をスタートしました。4月18日には恒例となり



用宗海岸でのBBQの様子 (2025年5月13日)

ました薬草園近くの竹林でタケノコ掘り、5月13日には用宗海岸でBBQを行いました。7月5日に名城大学八事キャンパスで開催された第71回日本薬学会東海支部大会では、3名の学生が口頭発表を行い、博士課程3年生の矢島聡さんが学生優秀発表賞を受賞しました。気づけば前期の試験期間も終わり、間もなく夏休みを迎えます。2025年度の合同セミナーは東大薬の主催で、9月8～9日に東海村のJ-PARCにて開催予定です。その様子は、次回の研究室だよりでお伝えできるかもしれません。(文責：橋本)

医薬品創製化学分野

私たちの研究室は今年で13年目を迎えました。私たちは、新しい作用機序に基づく有機分子触媒を開発し、生物活性物質を効率的に「作る」研究と、人工機能を付与した生体関連分子を「創る」研究を行っています。また、医薬品を短工程かつグリーンに合成することを目指し、光エネルギーを利用した新しい分子変換技術の開発にも取り組んでいます。その成果は国内外から高く評価されており、学会でも多くの賞を受賞しています。直近の1年間では、後藤祐希さん、佐野颯さん(2件)が優秀発表賞を受賞しています。今後も挑戦を続けて参りますので、ぜひ当研究室ホームページ(<https://w3pharm.u-shizuoka-ken.ac.jp/locus/index.html>)にて最新の成果をご覧ください。

今年度は女性4名を含む計6名の4年生が新たに研究室に加わりました。今後、研究室をより一層盛り上げ、優れた研究成果を社会に発信してくれるものと期待しています。また、今年度から中国人留学生も加わりました。異なる文化・価値観をもつメンバーの存在は、研究室に新たな視点と刺激をもたらしてくれると確信しています。進学に関するニュースとして、今年度は



2025年3月19日 学位授与式

4名もの学生が博士後期課程に進学しました。いずれも高い志をもった学生たちであり、今後の更なる活躍が楽しみです。また、3名の外部生を含む計6名が大学院入試に臨みますが、4年生2名は院試休み中の勉強の成果を当日の試験につけると院試壮行会にて約束してくれました。コロナ禍もようやく落ち着きを見せ、日常生活が戻りつつあります。これまで卒業生の皆さまと会う機会が限られていましたが、お時間がある際にはぜひ研究室にお立ち寄り下さい。それではお身体に気をつけてお過ごし下さい。

統合生理学分野

統合生理学分野では、健康長寿の延伸への貢献を目指し、1. 骨格筋を構成する筋繊維の再生機構、2. 主要膜リン脂質が担う細胞・生体機能・病態発症機構 に関する研究に取り組んでいます。2025年3月には修士学生1名、学部生5名が、それぞれの道へと旅立ちました。2025年4月からは、教員4名、客員共同研究員1名、大学院生4名、学部生19名、事務補佐員1名の体制となりました。最近のトピックスとして、平野助教、卒業生の小林千華さんを中心とした研究にて、骨格筋再生に関与する筋幹細胞の最初期応答に、TRPM7イオンチャネルが関与することをScience Advances誌に発表いたしました。また6年生の井上明香里さんが日本薬学会第145年会にて学生優秀発表賞を受賞し、6年生の横山卓矢君が病院・薬局実務実習発表会にて優秀発表者として表彰されました。

統合生理学分野では、『しなやかさ生物学・生命はなぜ「しなやか」なのか?』というテーマを重点研究の一つとしています。わたしたちの身体はさまざまなストレスに対してしなやかに対応することで、健康を維持しています。「しなやかさ」は非常に便利なキーワードであるものの、



2025年度 研究室集合写真

科学的な裏付けはなされていません。「しなやかさ生物学」の創成により、健康長寿の延伸への貢献を果たすべく研究にとりくんでいます。研究領域のHPをぜひご覧ください。(HP: <https://www.shinayakasanet/>)。また、研究だけでなく『しなやかさ生物学』という考えのもと、ソフトボール大会や飲み会などにも全力を注いでいます。

原雄二教授が当分野に着任して5年目を迎えました。さらに研究室が発展するよう教室員全員で取り組んでいく所存です。今後とも何卒ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

免疫微生物学分野

免疫微生物学分野では、梅本英司教授のもと「生体環境を重視した免疫学」をテーマに研究を進めています。腸内細菌や食事などの環境因子に絶えず晒される腸管では、病原体を排除しつつ常在細菌に過剰に反応しないための独自の免疫制御機構が発達しています。当研究室では主に粘膜組織における免疫細胞の機能や、常在細菌や病原性細菌により産生される代謝分子が免疫系に与える影響を研究しています。研究室ホームページでも紹介しておりますので、是非一度ご覧下さい。(<https://w3pharm.u-shizuoka-ken.ac.jp/immunol/>)

令和六年度は、当研究室からは修士課程の学生が3名、薬学科(6年制)の学生が4名、薬科学科(4年制)の学生が3名卒業し、大学院進学、製薬会社、薬局、ドラッグストアに就職しました。卒業生の皆様のこれからの益々の活躍を祈念いたします。

令和六年十月の研究室配属では、薬学科3年生2人、薬科学科3年生4人を新メンバーとして迎えました。歓迎会を開催し、自己紹介や趣味など



2025年4月 芝生園地にて

の話で大いに盛り上がりました。また、令和七年四月には大阪大学の竹田潔先生をお招きしてセミナーを主催致しました。六月には学友会の総会で梅本先生が講演を行いました。

現在、研究室では4年生6名、5年生3名、6年生1名、修士1年生2名、修士2年生3名、博士2年生1名の計18名の学生が所属し、研究に打ち込んでいます。より一層、研究室一丸となつて研究活動に邁進してまいりますので、同窓生の皆様には、引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしく御願いたします。

創薬探索センター

現代のがん治療を目的とした創薬では、新しい知識や仮説をもとにした分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬が次々に開発されています。しかし、その福音は一部のがん種に限定されており、多くの未解決セグメントを残しています。当研究室は2004年に開設されて以来、国内研究機関や製薬企業と共同でこれまでに新しい抗がん剤シーズの探索研究を進めています。これまでに転写制御因子やキネシンを標的とした新規抗がん剤候補物質を創製し、細胞系やマウスモデルでその効果を実証してきました。これらの成果は論文発表だけでなく欧米アジアなど各国での特許登録もされました。さらに、従来の抗がん剤のようにがん細胞自体を攻撃するのではなく、生体にもともと備わる免疫細胞の力を利用する薬剤の開発を進めています。がんの免疫寛容に関わるトリプトファン代謝酵素を標的としたユニークな化合物を発見しており、現在インシリコモデルを活用した構造最適化および動物モデルでの詳細な解析を進めています。また、企業と共同で抗ウイルス薬や新規診断法に関する研究にも取り組んでいます。当研究室では薬学としての化学をベースとした腫瘍学や免疫学について学生と共に学び理解を深めることにより、がんや感染症のアクセラレーターを狙った新薬シーズの研究開発に取り組

んでいます。有効な治療法の確立されない疾患で苦しむ方々の「HOPPE & HELLIP」を目指します。

令和6年度には、薬学科6年生の牧田すずかさんが第70回日本薬学会東海支部大会と日本薬学会第145年會にて学生優秀発表賞を受賞しました。社会人博士1名(田辺三菱製薬)、修士1名(クミアイ化学)、薬学科6年生2名(アステラス製薬、キッセイ薬品)、薬科学科4年生2名(博士前期課程進学)が修了/卒業し、それぞれの就職先や進学先で活躍中です。



2025年3月19日 学位記授与式後(静岡県大草薙キャンパス)

薬学キャリアデザイン近藤寄附講座

当寄附講座は開設7年目を迎えました。静岡薬科大学卒業生(昭和46年卒)近藤隆様からのご寄附によって運営されています。

学生の将来・進路に対する意識付けや薬学に対するモチベーションの醸成を目的として活動しており、①各分野で活躍する卒業生等による講義②卒業生の活動状況の調査③就職等の進路相談④国内外の短期留学・研修を希望する学生への支援などを行っております。

今年度も1年生「薬学概論」、3年生「薬学と社会」、4年生「調剤学」を担当し、製薬企業、病院、薬局、行政など、各界で活躍する延べ11名の卒業生等を講師として招聘し、講義を行っているところです。昨年度は、剣祭開催時に進路相談会を実施し、各界(製薬企業、化粧品企業、国家公務員)で活躍する卒業生10名をアドバイザーとして招聘し、各界の最新情報を提供していただきました。今年度は開催時期や形式を変えて実施することを考えており、より学生に寄り添った形で自身のキャ



2024年度進路相談会にて

リアについて考える機会を提供できるように調整しております。国内外の短期留学・研修等の支援につきましては、これまで国際学会等への参加に関する支援申請がほとんどでしたが、この度初めて語学留学に挑戦した学生に対する支援が実施されました。新しいことに挑んだ学生に敬意を表するとともに、それを支援できたことを嬉しく思います。

卒業生の皆様には今後とも変わらぬご支援をよろしくお願い致します。

叙勲 受章

次の方が受章されました。

心よりお喜びを申し上げます。

令和7年春の叙勲 2025年5月8日

村松 郁延 様 瑞宝中 綬章 (前北陸地区同窓会代表 昭和44年卒)



静薬学友会で把握できた方のみ掲載しております

叙勲受章の情報がありましたら、静薬学友会までご連絡下さい。

薬学部の人事異動

退職

衛生分子毒性学分野

助教

保坂

卓臣

令和7年1月

臨床薬剂学分野

教授

賀川

義之

令和7年3月

実践薬学分野

准教授

柏倉

康治

令和7年3月

生体情報薬理学分野

准教授

坂本

多穂

令和7年3月

分子病態学分野

教授

森本

達也

令和7年8月

着任

生化学分野

助教

塚本

庸平

令和7年4月

昇任

臨床薬剂学分野

准教授

内野

智信

令和6年10月

臨床薬剂学分野

教授

辻

大樹

令和7年4月

分子病態学分野

准教授

刀坂

泰史

令和7年4月

衛生分子毒性学分野

准教授

志津

怜太

令和7年4月

分子病態学分野

教授

細岡

哲也

令和7年9月

薬学部教室名および教員一覧

(カッコ内は大学院薬学研究院)

薬学科			臨床薬学大講座			
生体機能薬学大講座			臨床薬剤学分野	教授	辻 大樹	
生化学分野 (生化学)	教授	竹内 英之	(臨床薬剤学)	准教授	内野 智信	
	准教授	高橋 忠伸		講師	横山 匡	
	助教	紅林 佑希		臨床薬効解析学分野	教授	伊藤 邦彦
	助教	塚本 庸平		(臨床薬効解析学)	准教授	井上 和幸
教授	吉成 浩一	助教	杉山 恭平			
衛生分子毒性学分野 (衛生分子毒性学)	准教授	志津 怜太	医薬品情報解析学分野	特任教授	山田 浩	
	助教	大岡 央	(医薬品情報解析学)	講師	伊藤 由彦	
	教授	石川 智久		実践薬学分野	教授	内田 信也
薬理学分野 (薬理学)	准教授	木村 俊秀	(実践薬学)	講師	三浦 基靖	
	講師	金子 雪子		助教	河本 小百合	
	助教	山口 桃生		薬局管理学分野 (臨床薬剤学)	助教	谷澤 康玄
	教授	浅井 知浩	薬科学科			
医薬生命化学分野 (医薬生命化学)	准教授	小出 裕之	創薬科学大講座			
	講師	米澤 正	医薬品化学分野	教授	眞鍋 敬	
	助教	疋田 智也	(薬化学)	准教授	小西 英之	
准教授	窪田 辰政	講師		岩本 憲人		
准教授	ホーク フィリップ (Philip HAWKE)	助教		山口 深雪		
身体運動科学分野	准教授	窪田 辰政	生命物理化学分野	教授	橋本 博	
科学英語分野	准教授	ホーク フィリップ (Philip HAWKE)	(生命物理化学)	准教授	原 幸大	
分子薬学大講座				講師	菱木 麻美	
生体機能分子分析学分野 (生体機能分子分析学)	教授	轟木 堅一郎		助教	淵上 壮太郎	
	准教授	兒島 憲二	教授	濱島 義隆		
	助教	古庄 仰	医薬品創製化学分野 (医薬品創製化学)	准教授	江上 寛通	
教授	滝田 良	准教授		稲井 誠		
准教授	吉村 文彦	助教		山下 賢二		
助教	近藤 健	生命薬科学大講座				
生薬学分野 (生薬学)	教授	渡辺 賢二	統合生理学分野	教授	原 雄二	
	准教授	佐藤 道大	(統合生理学)	准教授	土谷 正樹	
	講師	岸本 真治		助教	村上 光	
	助教	渡邊 正悟		助教	平野 航太郎	
医療薬学大講座				教授	梅本 英司	
薬剤学分野 (薬剤学)	教授	尾上 誠良	免疫微生物学分野 (免疫微生物学)	准教授	大橋 若奈	
	准教授	佐藤 秀行		助教	中西 勝宏	
	助教	山田 幸平		助教	岡村 洋	
創剤科学分野 (創剤工学)	教授	近藤 啓	大学院付属施設			
	講師	照喜名 孝之	創薬探索センター	教授	浅井 章良	
助教	畑中 友太	准教授		澤田 潤一		
分子病態学分野 (分子病態学)	教授	細岡 哲也		講師	小郷 尚久	
	准教授	刀坂 泰史		助教	村上 央	
	講師	砂川 陽一	薬食研究推進センター	特任教授	山田 静雄	
生体情報薬理学分野 (生体情報薬理学)	教授	黒川 洵子	寄附講座	講師	伊藤 由彦	
	助教	清水 聡史		特任教授	賀川 義之	
	助教	児玉 昌美		講師	米澤 正 (兼務)	
分子臨床薬理学分野	特任教授	森 潔	薬学キャリアデザイン近藤寄附講座	特任教授	山田 浩	
ゲノム病態解析分野	特任教授	寺尾 知可史	茶健康科学講座	特任助教	河合 保枝	

薬学部令和6年度成績優秀者賞・岩崎賞受賞

薬学科 成績優秀者賞



大学生生活の振り返りと近況報告

杏林堂薬局
篠原 佑奈
(実践薬学分野)

この度は成績優秀者賞という栄誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。今回の受賞は、熱心にご指導いただいた先生方や、共に学業に励んだ友人たち、そしてあたたかく見守り支えてくれた家族のおかげであると、心より感謝しております。

6年間の学生生活を振り返ると、楽しく充実した思い出とともに、辛く困難なことも多くありましたが、特に印象に残っているのは3年半の研究室生活です。研究活動では、様々な疑問にぶつかり、先生方や先輩方、後輩たちとディスカッションを重ね、試行錯誤する日々、心が折れそうになることもありましたが、様々なことに疑問を抱き、周囲と積極的に議論を重ねる事の重要性を身をもって学ぶことができました。研究活動以外にも、英語のワークショップへの参加や留学生との交流など、様々な経験を経ることができ、新たなことに挑戦する機会をくださっ

た先生方には大変感謝しております。また、友人たちと支え合いながら、夜遅くまで研究や勉強に励んだ日々も、振り返ってみると貴重な時間であったと感じております。

現在は生まれ育った静岡県内で薬局薬剤師として勤務しております。研修期間を終えて実際に現場で勤務し始めてからはまだ3か月ほどで、わからないことばかりですが、新しい知識を吸収しながら、患者様の役に立てることが実感できる日々喜びを感じております。

最後に、6年間の大学生生活を通して、多くの素敵な方々に出会い、様々な経験をすることができたのは大きな財産となりました。今後も、周りの方々への感謝の気持ちと様々なことに疑問を抱き学ぶ心を忘れずに、生まれ育った静岡という地で薬剤師として貢献できるように、日々精進してまいります。

薬学科 岩崎賞



岩崎賞受賞に寄せて

横浜市立大学附属病院
西山 由真
(実践薬学分野)

この度は、岩崎賞という名誉ある賞を賜り、大変光栄に存じます。今回の受賞は、これまで支えてくださった先生方、ともに切磋琢磨してきた友人、そして温かく見守ってくれた家族のおかげであり、この場を借りて心より感謝申し上げます。

私はかつて、自分に自信がなく、興味や関心があっても一歩を踏み出せず挑戦の機会を逃すことが多くありました。しかし大学生生活では、研究発表や実習先での経験など、緊張や不安を感じる場面で仲間や先生方に励まされ、「やってみよう」と思えるようになりました。小さな挑戦を積み重ねる中で前に進む勇気を身に付けられたのは、こうした経験のおかげです。特に印象深いのは研究室での活動です。限られた時間の中で計画を立て、試行錯誤しながら結果をまとめる過程は、粘り強く課題に向き合う姿勢を育んでくれました。ゼミでの発表やディスカッションを通じて身に付けた、自分の考えを整

理し相手に伝える力は、現在の業務にも生かされています。

こうした学びを経て、今年4月から大病院でレジデントとして研修を受けています。病院実習で目にした、多職種と連携しながら専門性を発揮する薬剤師の姿に憧れ、当初は「自分には縁遠い」と感じていたレジデントという道に挑戦する決意を固めました。幅広い経験を積み、成長できる環境に身を置きたいという思いが、その原動力です。現在は中央業務の研修に従事しており、10月からは病棟業務にも携わる予定です。生まれ育った静岡を離れ、慣れない土地で奮闘する日々ですが、新しい環境は多くの刺激と学びをもたらしてくれます。今後も多様な経験を重ね、専門性を深め、現場で生かせる力を磨いていきたいと考えています。

学びの姿勢を忘れず、患者さんやチームから信頼される薬剤師を目指し、未来に向けて一歩一歩着実に歩んでまいります。

薬科学科 成績優秀者賞



大学生生活を振り返って

博士前期課程1年

小林 悠人
(生命物理化学分野)

この度は成績優秀者賞という名誉ある賞を頂き、大変光栄に思います。この度の受賞は熱心にご指導して頂いた先生方、温かく見守ってくれた家族、共に勉学に励んだ友人のおかげであり、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

4年間の大学生活は、周りの方々の優しさ、温かさに触れ、大変充実した日々でした。大学入学当初、新型コロナウイルスの影響による部活動の自粛や遠隔授業の実施など友人との交流が難しく感じる場面も多々ありました。2年生になると対面授業や実習の割合が増え、部活動や剣祭も行われるようになるなど、本来の大学生活を送ることができるようになるとともに、当たり前の日常の大切さを実感しました。3年生後期からは研究室生活が始まったことで初めて研究の世界に触れ、研

究の楽しさや難しさを味わいました。

静岡県立大学での4年間は今まで過ぎた学生生活の中で最も思い出に残った4年間であり、心からこの学校に進学して良かったと思います。そして私が充実した大学生活を送ることができたのは、周りの方々の優しさや温かさに触れることができたからです。至らぬ点も多々あったかと思いますが、このような私を温かく迎えてくださり、改めて感謝申し上げます。

この春からは本学大学院に進学し、引き続き生命物理化学講座にて研究に励んでおります。大学生活はとても短くそして長くも感じられた4年間でしたが、ここで得た経験や出会いに感謝し、残りの学生生活を過ごしていきたいと思えます。そしてこれまで支えてくださった方々に恩返しできるように、より一層精進してまいります。

薬科学科 岩崎賞



学部生活を振り返って

博士前期課程1年

神田 亜矢加
(医薬品製造化学分野)

このたびは、岩崎賞という栄えある賞を賜り、大変光栄に存じます。熱心にご指導くださった先生方、共に励まし合い切磋琢磨した友人たち、そして温かく支えてくれた家族の存在に支えられ、このような栄誉をいただくことができました。心より感謝申し上げます。

私は本学入学以前、医薬品卸売業の営業職として勤務しておりました。仕事の中で患者さんの存在を意識することが多く、「よりよい医薬品をつくりたい」という思いを抱き、創薬研究者を志すようになりました。理系の素地が全くない状態から受験勉強を始め、本学薬学部へ入学した当時の緊張と期待は、今でも鮮明に覚えています。

入学後は、先生方による高度な薬学の講義が非常に刺激的で、特に有機化学には強く惹かれました。有機化学は「ものをつくる」ための科学であると同

時に、「ものの性質を理解する」学問でもあり、新たな医薬品を創出したいと考える私にとって、その重要性は計り知れません。現在はその思いのもと有機化学の研究室に所属し、実験と向き合う充実した日々を送っています。

研究では、パラジウム触媒を活用した新規反応開発に挑戦しており、うまくいかない試行錯誤の連続の中で、仮説を立て、原因を探り、工夫を重ねることの楽しさと奥深さを実感しています。この積み重ねこそが創薬の原点だと感じるようになりました。

勉学や研究に真摯に向き合い、年齢や背景の異なる多くの仲間と共に学び合い支え合った4年間は、私にとってかけがえのない時間となりました。この経験を糧として、今後は大学院での研究に一層励み、創薬研究者として社会に貢献できるよう、努力を重ねてまいります。

在学生だより

未知への挑戦と成長

今期の静薬学友会の代議員を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

四月に行われた入学式から既に四月が経過し、前期の授業をおえました。私にとっては、学問においても、生活においても初めての経験ばかりで息をつく暇もなく、あつという間に過ぎた四か月間でした。学問において、専門科目では高校の化学の分野からさらに発展、深掘していくような内容が多く非常に興味深いものでした。それに加え、薬学概論では先生方が専門として

小池 悠生

(薬学科1年)

私は現在、部活動は硬式テニス部、ジャグリングクラブに所属しており、日々練習に勤しんでおります。硬式テニス部では他の学部の学生と関わる機会が多く、多様な価値観に触れることができ、視野が広がるなどといった自身の成長を日々実感します。また、我々硬式テニス部は東海三部リーグに所属しており、今期の目標としては三部残留を掲げているためその目標達成に私も貢献出来るように努力したいです。私はこの六年の大学生活を学生代議員としての自覚をもって実りあるものとし、静薬学友会に貢献できるようにしていきたいです。



入学式にて

学生6年間を振り返って

櫻井 翔

(薬学科6年)

静岡県立大学薬学部との出会いは、高校2年生のときに参加したファーマカレッジでした。薬剤学研究室にて、薬物動態の魅力について教えていただいたことを今でも覚えております。現在は、その薬剤学研究室に所属し研究に取り組んでおり、今思えば、この時既に自分の進む道が動き始めていたのかもしれない。

できたことに心が躍り、仲間と過ごした時間はかけがえない思い出となりました。当時、私は部長を務めており、初心者も経験者も分け隔てなく楽しみながら成長できる部活動を目指して取り組んでいました。合宿での充実した時間は、そうした部の雰囲気づくりにおいても、大きな役割を果たしたと感じています。

これまでの学生生活を振り返った時、まず思い浮かぶのは多くの方々に支えていただいたことへの感謝の気持ちです。先生方はもちろんのこと、頼もしい先輩や慕ってくれる後輩、そして互いに刺激を与え合いながら高め合えた同期の存在が、私の成長を大きく後押ししてくれました。例えば、

学生生活6年間はあつという間で、来年からは製薬企業の研究職として働き始めます。これまでの大学生活で得た学びや経験を糧に、一人でも多くの方の笑顔を増やせるよう、真摯に取り組んでいこうと思えます。

英語を流暢に話す同期に触発され、私は研究室に所属する留学生と週に1回1時間の英会話を始めました。この取り組みは今現在半年以上継続しており、私の英語力はメキメキと伸びているはず。学生生活で特に印象に残っているのは、硬式テニス部での合宿です。コロナ禍が明け、ようやく大学生らしい活動が



部活の合宿にて 左が本人

一年を振り返って

本間帆乃果

(薬科学科4年)

私が研究室に配属されてから一年が過ぎようとしています。何もわからず不安と緊張でいっぱいだった当初から様々なことを経験し、怒涛の日々であったと同時に非常に充実したものであったと感じます。

まず一番大きな環境の変化は、研究室に所属したこと。それ以前は殆ど曜日毎の授業、部活、バイトのためだけに動いていましたが、今ではこれに加えて実験やイベント、研究室内で決められた曜日に行われるセミナーやディスカッション等があります。忙しくなったと同時に、この研究室に所属しているという自覚が芽生えました。

また、研究というものが新鮮に感じました。実習では決められた方法に従ってある程度予測できる結果を出し考察するものですが、研究ではまずテーマについて調べ、計画を立てて実験し、結果について考察して次の実験に繋げる。といった工程をひたすら繰り返すことになるため、より骨が折れると感じました。初めて使う器具や操作が多かったためすぐには慣れませんでした。が、先生や先輩方が丁寧に指導してくださるおかげで少しずつ成長出来ているため楽しく過ごせています。しかし、まだまだ勉強不足ではあるので、今後とも精進していきたいです。

そして、特に大変だと感じたのは、研究室と授業や実習を両立させること

です。研究を進めるのはもちろんですが、その間も変わらず授業や中間・期末テスト、さらには約二か月間の臨地実習がありました。私は物事の両立が得意ではありませんが、頼れる先輩のおかげでここまで乗り切ることが出来ました。

今後も研究を進める上で様々な問題にぶつかることになるとは思いますが、牛歩であれ経験を積んで進んでいきたいです。



研究室対抗バドミントン大会にて 左から3番目が本人

3年間の振り返りとこれからについて

廣岡聖菜

(薬科学科3年)

気づけば学生生活の折り返し地点を過ぎ、3年前期を終えました。

神奈川から進学のために引越し、一人暮らしを始めた当初は、知り合いもおらず、不安でいっぱいだったのを今でも鮮明に覚えています。しかし、同じように新生活を始めた仲間も多く、お互いに助け合い、支え合うことで次第に不安は和らいでいきました。さらに、新しく入部した部活動では、優しい先輩方や同期との素敵な出会いに恵まれ、学校生活にも少しずつ慣れていきました。

1年生の頃は一般教養や基礎科目が中心でしたが、部活動で始めたジャグリングが良い気分転換となり、勉強と趣味のバランスを保ちながら過ごせました。2年生からは専門科目が一気に増え、実習も本格的に始まりました。慣れない実験やレポート作成に戸惑いながらも、薬学の奥深さと面白さを感じるようになってきました。

3年生になってからは授業内容がより高度かつ専門的になり、難しさも増えました。レポートやテストに追われながらも、友人たちと協力し合い、時には息抜きをしながら、充実した日々を送っています。

そして10月からはいよいよ研究室に配属されます。どの研究室で、どんなテーマに取り組むか、まだ悩みは尽きません。しかし、自分の関心のある分野を深く掘り下げられる貴重な機会でもあり、今から大きな期待と楽しみを抱いています。

これまで培ってきた知識や経験を活かしながら、新たな環境で多くを学び、さらに成長していきたいと思っています。



部活の仲間たち (右から2番目が本人)

本部だより

一般社団法人 静薬学友会

令和6年度～令和7年度 理事会・総会 議事要旨まとめ

1. 令和6年度 第2回理事会（2024年9月14日）

開催場所…静岡県立大学薬学部棟1階SGD室

形 式…ハイブリッド

出席者…理事10名、監事2名、顧問2名

【報告事項】

- ・新役員、顧問、名誉顧問の紹介および委任体制の確認。
- ・令和6年度薬学生涯研修講座（2025年2月24日開催予定）の概要共有。
- ・会報第92号発送時に年会費クレジット支払い案内を同封する提案。
- ・地区同窓会支援金および関連規定書類の改訂報告。
- ・近藤寄附講座の活動報告および進路相談会の準備状況報告。
- ・同窓会連合会の現状報告（7学部構成、月1回Zoom会合実施）。
- ・キャリア支援サポーター制度開始に伴い、薬学部独自の取り組みを控える方針を確認。
- ・SYGコーポレーションの今後の方向性を設立者間で検討。
- ・会報發送形態の合理化（ゆうメール移行、電子化推進、郵送費削減策）を確認。

【審議事項】

- ・各種委員会および地区担当の割り当てを確認。
- ・「懇親とネットワーキングの集い」2026年大阪開催に向けて検討を開始。
- ・教員協力による新入生歓迎会の実施を検討。

2. 令和6年度 第3回理事会（2025年1月25日）

開催場所…静岡県立大学薬学部棟1階SGD室

形 式…ハイブリッド

出席者…理事13名、監事2名、顧問2名

【報告事項】

- ・令和6年度薬学生涯研修講座の開催準備報告。
- ・静岡県地区同窓会総会（1月26日開催）に関する詳細共有。
- ・各地区同窓会会則整備の進捗状況報告。
- ・近藤寄附講座活動および学生支援実績の報告。
- ・SYGコーポレーションの今後の方針を夏季に結論予定。
- ・2026年薬学会大阪大会にあわせた「懇親とネットワーキングの集い」開催計画。

【審議事項】

- ・令和7年度事業計画案を承認（前年度踏襲）。
- ・令和7年度予算案…会報費高騰に伴う電子化・郵送方法の見直し検討。
- ・「地区同窓会ガイド」および「会費等規定」の見直し提案。
- ・会報発行費用に関する方向性を次回理事会までに定める方針を確認。

3. 令和7年度 第1回理事会（2025年5月31日）

開催場所…静岡県立大学薬学部棟1階SGD室

形 式…ハイブリッド

出席者…理事13名、監事2名、顧問2名

【報告事項】

- ・第8回定時総会における学部長交代および特別講演の概要報告。

- ・令和6年度薬学生涯研修講座（参加者17名）の実施報告。
- ・令和6年度成績優秀者賞および岩崎賞の授与報告（計4名）。
- ・近藤寄附講座の活動報告および今後の開催時期検討。
- ・「懇親とネットワーキングの集いー2026大阪ー」の開催日程（2026年3月29日）を決定。

- ・SYGコーポレーションの今後の方針を総会後に議論予定。
- ・木下理事退任に伴う学生国際学会支援制度の見直しを検討。

【審議事項】

- ・中国地区代議員交代（池田潔氏↓波多野力氏）を承認。
- ・学生代議員交代（秋田直杜氏↓小池悠生氏）を承認。
- ・令和6年度事業報告および決算報告を承認。
- ・就職説明会を病院薬剤師会と連携して実施する方向を検討。

4. 第8回定時総会（2025年6月29日）

開催場所…静岡県立大学 小講堂

形 式…ハイブリッド

出席者…代議員25名、理事12名、監事2名、顧問1名、会員2名

【報告事項】

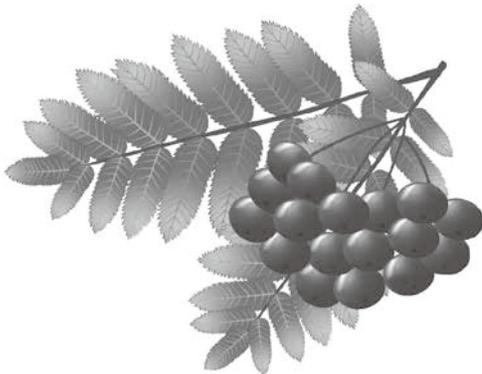
- ・令和6年度事業報告を了承。
- ・令和7年度事業計画（懇親とネットワーキングの集いー2026大阪ーを含む）を了承。
- ・令和7年度収支予算を了承（会報費増加分は他予算で調整）。
- ・近藤寄附講座について、今後5年間は安定運営可能との報告。
- ・SYGコーポレーションの今後については引き続き検討中。

【審議事項】

- ・令和6年度決算報告を全会一致で承認。
- ・会報電子発行による費用削減を検討。
- ・事業計画の位置づけを審議事項とするか、理事会で検討することを決定。

備考…全会議はハイブリッド形式で実施され、いずれも過半数出席により成立が確認された。今後の重点課題として、会報電子化、地区同窓会運営体制の整備、SYGコーポレーションの方針決定、学生支援制度の見直しが続的に議論されている。

※議事録の詳細については、静薬学友会のwebにて公開しています。



貸借対照表

一般社団法人 静葉学友会
全事業所[税込] (単位: 円)
令和7年 3月31日 現在

《資産の部》	
【流動資産】	
(現金・預金)	
現金	3,344
預金	14,211,067
普通預金	14,214,411
流動資産合計	14,214,411
【固定資産】	
(基本財産)	
普通預金	27,397,724
関係会社株式	8,000,000
基本財産	35,397,724
固定資産合計	35,397,724
資産合計	49,612,135
《負債の部》	
【流動負債】	
未払金	211,771
預り金	11,127
未払法人税等	71,000
流動負債合計	293,898
負債合計	293,898
《正味財産の部》	
【指定正味財産】	
寄付金	35,397,724
指定正味財産合計	35,397,724
(うち基本財産への充当額)	(35,397,724)
【一般正味財産】	
正味財産合計	13,920,513
負債及び正味財産合計	49,318,237
	49,612,135

決算報告書

第7期

自 令和6年 4月 1日
至 令和7年 3月31日

一般社団法人 静葉学友会

静岡県静岡市駿河区谷田5-2番地1

財産目録

一般社団法人 静葉学友会
全事業所

《資産の部》

【税込】(単位：円)
令和7年 3月31日 現在

【流動資産】 (現金・預金) 現 金 普通 預金 静岡銀行 草薙支店 0934106 郵便局 二三八 5637782 清水銀行 美術館前 2192429 郵便振替口座 (400,001) 静岡銀行 無利息型 0963316 住信SBIネット銀行 (1,259,388) 現金・預金計 41,612,135 流動資産合計 41,612,135				
【固定資産】 (投資その他の資産) 関係会社株式 8,000,000 投資その他の資産 8,000,000 固定資産合計 8,000,000 資産合計 49,612,135				
《負債の部》				
【流動負債】 未払金 211,771 預り金 11,127 未払法人税等 71,000 流動負債合計 293,898 負債合計 293,898				
正味財産			49,318,237	

正味財産増減計算書

一般社団法人 静葉学友会

【税込】(単位：円)
自 令和6年 4月 1日 至 令和7年 3月31日

	一般会計	近藤基金	災害支援基金	総合計
I 一般正味財産増減の部				
【経常収益】				
【受取会費】				
受取会費	4,130,000			4,130,000
正会員受取会費	5,440,000			5,440,000
受取入金金				
【受取寄付金】				
受取寄付金	50,000			50,000
指定正味財産振替収入			20,440	20,440
【その他収益】				
受取利息	6,105			6,105
雑収益	35,000			35,000
経常収益計	9,661,105		20,440	9,681,545
【経常費用】				
【事業費】				
広報名簿事業費	590,900			590,900
会報発行費	2,193,431			2,193,431
退官記念事業費	200,550			200,550
大学行事援助費	185,080			185,080
生涯学習費	234,183			234,183
就職説明会参加費	0			0
慶弔費	0			0
渉外費	78,140			78,140
会員支援活動費	751,555			751,555
支払寄付金	10,000			10,000
事業費計	4,243,839		20,000	4,263,839
【管理費】				
(人件費)				
給料 手当	2,695,828			2,695,828
法定福利費	7,156			7,156
人件費計	2,702,984			2,702,984
(その他経費)				
会議費	590,308			590,308
通信運搬費	665,849			665,849
消耗品費	207,135			207,135
水道光熱費	26,700			26,700
地代家賃	3,690			3,690
新聞図書費	0			0
支払手数料	517,718		440	518,158
その他経費計	2,011,400		440	2,011,840
管理費計	4,714,384		440	4,714,824
経常費用計	8,958,223		20,440	8,978,663
当期経常増減額	702,882		0	702,882
【経常外収益】				
経常外収益計	0		0	0
【経常外費用】				
経常外費用計	0		0	0
税引前当期一般正味財産増減額	702,882		0	702,882
法人税、住民税及び事業税	71,000			71,000
当期一般正味財産増減額	631,882		0	631,882
一般正味財産期首残高	13,288,631		0	13,288,631
一般正味財産期末残高	13,920,513		0	13,920,513
II 指定正味財産増減の部				
基本財産受取利息			293	293
一般正味財産への振替額	0		-20,440	-20,440
指定正味財産期首残高	0		637,331	35,417,871
指定正味財産期末残高	0		617,184	35,397,724
III 正味財産期末残高	13,920,513		617,184	49,318,237

最終講義のご案内

石川 智久 教授（薬理学分野）

伊藤 邦彦 教授（臨床薬効解析学分野）

静岡県立大学薬学部 石川 智久 先生、伊藤 邦彦 先生（五十音順）は、令和8年3月末をもちまして、御定年退職の節目を迎えられることになりました。

つきましては、下記の通り、最終講義を行いますので、ご案内申し上げます。

多くの皆様のご参加をお持ちしております。

詳細は、静岡県立大学薬学部ホームページ (<http://w3pharm.u-shizuoka-ken.ac.jp/>) にてお知らせいたします。

- ◆ **最終講義** 日時 令和8年2月21日(土) 午後
場所 静岡県立大学 草薙キャンパス
- ◆ **パーティー** 最終講義後 静岡県立大学 草薙キャンパス 学生ホールにて
- ◆ **主 催** 薬学部教授定年退職記念祝賀会事務局
発起人代表 薬学部長 吉成 浩一
- ◆ **お問い合わせ** 静岡県立大学薬学部 薬理学分野 山口 桃生
TEL：054-264-5693、Eメール：yamamomo@u-shizuoka-ken.ac.jp

静岡県立大学薬学部 臨床薬効解析学分野 杉山 恭平
TEL：054-264-5675、Eメール：k.sugiyama@u-shizuoka-ken.ac.jp



静薬学友会および関西地区同窓会共同主催 「懇親とネットワーキングの集いー2026大阪ー」のご案内

静薬学友会および関西地区では、来年春に大阪で開催される日本薬学会第146年会の最終日に合わせて懇親会を企画いたしました。

このイベントにつきましては、2024年の日本薬学会第144年会の最終日に合わせて開催した「懇親とネットワーキングの集い@横浜」が盛会であったことから、今回も薬学会に参加される会員、さらには関西地区在住の会員の皆様の交流の場としてご活用いただきたく、ご案内する次第です。

新旧の先生方にもお声がけしていますので、同級生、先輩後輩とお誘い合わせの上、ご都合のつく方は、奮ってご参加ください。

「懇親とネットワーキングの集いー2026大阪ー」

日 時：2026年3月29日(日) 15時～17時30分

場 所：新大阪ワシントンホテルプラザ 2階

大阪市淀川区西中島5-5-15

JR新大阪駅1階正面口から徒歩約5分

対 象：静岡薬科大学・静岡県立大学薬学部の同窓生

大学生・大学院生および現役教員・元教員

会 費：5,000円（大学生・大学院生に限り2,000円）

※当日受付で頂戴します。



静薬学友会HP
懇親とネットワーキングの集い
ー2026大阪ー



申込：左記のQRコード※からお申し込みください。

☆「懇親とネットワーキングの集いー2026大阪ー」

最終締切は 2026年2月13日(金) 予定です。

問合せ先：一般社団法人静薬学友会

e-mail: shizuyak@u-shizuoka-ken.ac.jp

静岡県地区同窓会開催のお知らせ

第2回静薬学友会静岡県地区同窓会を下記のとおり開催いたします。

つきましてはご多用の折とは存じますが、万障お繰り合わせの上、何卒ご出席賜りますようお願い申し上げます。

○開催日 令和8年2月1日(日)

○総会・研修会

・場 所 レイアップ御幸町ビル 5階5D (静岡駅北口より徒歩3分)
〒420-0857 静岡市葵区御幸町11-8 TEL 054-269-5070

〈総会〉 14:00~14:30

- ・事業報告、決算報告 (令和6年度・7年度)
- ・事業計画、収支予算、役員選任、幹事承認 (令和8年度・9年度)
- ・(一社)静薬学友会 代議員静岡県地区候補者推薦 (令和8年度~11年度)
- ・その他

〈研修会〉 14:30~16:00

- ・静薬学友会の活動の現状 (仮題)
一般社団法人静薬学友会 会長 安倍道治 先生 (昭和46年卒)
- ・薬学部の現状と未来について (仮題)
静岡県立大学 学長 今井康之 先生

○懇親会 16:00~18:00

- ・場 所: ホテルアソシア静岡 (静岡駅北口より徒歩1分)
〒420-0851 静岡市葵区黒金町56番地 TEL 054-254-4141
- ・懇親会費: 6,000円 (当日受付にて承ります。)

○申込み

- ・御出席の方は、静薬学友会ホームページに掲載した参加申込フォームまたは右記QRコードより1月21日(水)までにお申し込みください。



- ・静薬学友会ホームページ <https://shizuyaku.jp/>

静岡県地区同窓会代表 岡野 幸次

お問い合わせ

一般社団法人静薬学友会
〒422-8526 静岡県静岡市駿河区谷田52-1
E-mail: shizuyak@u-shizuoka-ken.ac.jp
URL: <http://shizuyaku.jp>

中国地区同窓会総会・講演会2025 オンライン開催のお知らせ

静薬学友会中国支部会員は、広範な地域に在住されていますので、支部総会を対面で開催しようとしても、少ない場合には数名のご参加にとどまっております。実際にお会いして対面でお話ができる機会も重要ではありますが、少しでも多くの会員の皆様にご参加いただくことを期待して、今回はオンラインでの開催を以下のように企画しました。

会員の皆様、是非ともご参加くださいますようお願い申し上げます。

1. 日 時： 2025年12月14日(日) 13:00-14:10 (予定)
2. 方 法： Zoomによるオンライン開催
3. 対 象： 中国地方在住の静岡薬科大学・静岡県立大学の卒業生・修了生・旧教職員
および関係者
4. 支部総会
 - ・静薬学友会 安倍道治会長 同窓会の現況
 - ・支部活動について中国支部 池田 潔、波多野 力
5. 講演会（薬剤師研修センター認定単位の配付はございません）
 - ・高橋千恵子先生（(有)わかくさ調剤薬局代表取締役・静岡県立大学臨床教授）
「これからの薬剤師に期待されること」
 - ・尾上誠良先生（静岡県立大学薬学部 薬剤学分野教授）
「薬剤科学のチカラ：基礎・臨床融合によるモノづくりを目指して」

【申込締切】

11月30日(日) 参加ご希望の方は、静薬学友会ホームページに掲載した参加申込フォームよりお申し込みください。

☆静薬学友会ホームページ <https://shizuyaku.jp/>

中国地区同窓会総会・講演会2025オンライン開催 参加申込はこちら →



【連絡先】

中国地区同窓会代表 波多野 力 (E-mail: tsutomuhatano2025@gmail.com)

静岡薬科大学 昭和46年卒 同期会開催のお知らせ

皆様におかれましては、ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

さて、コロナ禍により延期となっていました同窓会を下記の通り、開催することに致しました。早いもので卒業後半世紀が過ぎ、多くの方は今年、喜寿を迎えられることと思います。

また、今年は、昭和に換算しますと百年という節目の年にもなります。

この機会に同期生が集まり、旧交を温める良い集いとしてと考えていますので、奮ってご参加ください。

記

- 1 日 時：令和7年11月6日(木) 15:00~18:00 (受付開始:14:30~)
- 2 会 場：ホテルグランヒルズ静岡 (静岡駅南口より徒歩1分)
〒422-8575 静岡県静岡市駿河区南町18-1 TEL 050-3185-7809
<https://grandhillsshizuoka.jp/>
- 3 会 費：12,000円 予定 (当日現金でお願いします。)
- 4 出欠連絡：幹事より開催案内をはがきでお送りします。

◇幹 事 木苗恵子、久保田美恵子、山田静雄(以上、静岡在住)、安倍道治、桶川 修



静岡薬科大学 昭和55年4月入学生 及び 昭和59年3月卒業生 同級会開催のお知らせ

静岡薬科大学に入学してから早くも45年が経過いたしました。

このたび、その記念すべき節目として、下記のとおり同級会を開催することとなりました。学生時代の思い出を共有し、懐かしい仲間たちとの再会を楽しみにしている次第です。

皆さまお忙しいことと思いますが、ぜひ御参加いただき、素晴らしいひとときを共に過ごせれば幸いです。

幹事一同、皆さまの御参加を心よりお待ちしております。

記

- 1 日 時：令和7年11月29日(土) 17:00~20:00 (受付：16:30~)
- 2 会 場：ホテルアソシア静岡 (静岡駅北口より徒歩1分)
〒420-0851 静岡県静岡市葵区黒金町56番地 TEL 054-254-4141
- 3 会 費：10,000円 (当日現金でお願いします。)
- 4 出欠連絡：下記、参加申込フォームに、参加不参加に関わらずご記入をお願いします。
令和7年11月22日(土) までにご回答ください。



<https://forms.gle/1ujoqQRp1SMycX4n8>

- 5 その他：宿泊希望の方は各自ご予約ください。

◇幹 事 田中 (喜) (全体)
栗原 (Aクラス) 深澤 (Bクラス)
井上 (Cクラス) 梅原 (Dクラス)



静岡県立大学薬学部 1995年3月卒業生 卒業30年記念同窓会 開催のお知らせ

皆様、お変わりなくお過ごしでしょうか。

さて、私たちが静岡県立大学薬学部を卒業してから、早いもので30年の月日が流れました。

この記念すべき節目に、旧友が集い、思い出話に花を咲かせ、親睦を深める「卒業30年記念同窓会」を下記の通り開催することになりました。

学舎を巣立ち、それぞれの道を歩んできた30年間。

コロナ禍を経て、社会情勢も大きく変化する中で、皆様お一人おひとりが様々な経験をされ、今を築いてこられたことと思います。

多忙な日々をお過ごしのことと存じますが、この機会にぜひご出席いただき、当時の思い出を語り合い、懐かしい顔ぶれと再会できることを心より楽しみにしております。

ご多忙の折とは存じますが、何卒ご出席賜りますようお願い申し上げます。

記

- 1 日 時： 2025年11月29日(土) 17時45分開場 18時開宴
- 2 会 場： クーポール会館
静岡県静岡市葵区紺屋町2-2
(静岡駅北口より約5分 紺屋町地下街K7出口すぐ)
<https://coupole-shizuoka.jp/>
- 3 会 費： 8,000円 (事前集金を予定・別途集金方法をご案内します)
- 4 申込締切： 2025年10月31日 (一次締切)
下記URL又は右のQRコードからお申し込みください。
※残念ながらご欠席されます方も、
是非ご回答とメッセージをいただけますと幸いです。
<https://forms.gle/QvwnPWH4E4qjuUdp8>
- 5 宿 泊： 宿泊希望の方は各自ご予約ください。
- 6 その他： LINEオープンチャットにて本会情報を掲示しています。
LINEを使用されている同窓生は是非アクセスしてください。
なお、初めて参加する時には、ニックネームを
「名字(旧姓)+名前」に変更してください。
また、卒業年と所属研究室名を書き添えていただいております。
<https://x.gd/5hVSMm>



◇幹事 志村将彦、曾根啓紀、永井(塩川)健一、永井真由美、中島重紀、山本(堀内)香苗、
渡邊(塚本)啓子、渡邊 学

集記 編後

本号の編集後記は、平成14年卒の米澤正が担当させていただきます。昨年度、静岡薬学友会の理事に就任し、学友会報の編集委員を務めることになりました。慣れない業務に奮闘しておりますが、無事に皆様のお手元にこの会報をお届けできることを大変嬉しく思います。

さて、今年度の特集は「薬学×〇〇」と題し、薬学分野の広がりについて、多様なキャリアを歩む同窓生の皆様にご寄稿いただきました。特集記事を読み進めるにつれて、薬学が単一の専門分野に留まらず、多岐にわたる領域と結びつき、新たな価値を創造していることを改めて感じました。アカデミア、企業、行政、そして海外の医療現場でご活躍されている皆様の貴重なご経験や知見は、これから社会に出る学生たちだけでなく、私たち卒業生にとっても、自身のキャリアや薬学の役割を再考する上で大きなヒントとなるでしょう。昨今話題になることが多いAI技術が行政において広く使われていることはとても興味深かったです。

今回、学生時代私が所属したラグビー部の先輩にもご寄稿をお願いしました。学生時代、グラウンドで泥まみれになりながらボールを追いかけた日々が懐かしく思い出されます。当時、ラグビーを通じて培ったチームワークや問題解決能力は、形を変えながらも今の仕事に活かされていると私も実感しています。薬学という専門性に加えて、部活動やサークル活動で培われる人間性や経験も、キャリアを豊かにする重要な要素です。現在もOB会と称して顧問でいらっしゃった大石哲夫教授（平成27年3月ご退官）を中心に年一で集まっていますが、各界における仲間の活躍を見聞きすることはこの上ない刺激を私に与えてくれます。この数年、新型コロナウイルスの影響によりオンラインでの活動が中心となり、直接顔を合わせる機会が大幅に減少しました。対面での行事が徐々に復活し、最近ではほぼ以前と同じように戻ったように思います。人と人との繋がりや貴重さを改めて感じるようになったタイミングで携わったこの会報が、物理的な距離を超え、同窓生同士の絆を再確認し、情報や経験を分かち合う場となることを願っています。学友会員あるいは現役教員・学生との交流につきましては、本稿でご案内している「懇親とネットワーキングの集い2026大阪」には是非ご参加ください。皆様とお会いできるのを楽しみにしております。

最後に、本号にご寄稿いただいた皆様、そして会報発行にご尽力いただいた関係者の皆様に心より感謝申し上げます。今後も、同窓生の皆様にとって有益で魅力的な情報をお届けできるよう、編集委員一同、精一杯努めてまいります。

次号の会報で取り上げてほしいテーマや、ご意見、ご感想などがありましたら、ぜひお聞かせください。

会報編集委員 米澤 正（平成14年卒）

ご寄付のご報告

薬大一期生（代表 須崎守康様）太田斐子様を通してご寄付 五万円
今井康之様（静岡県立大学学長）よりご寄付 一万円
ご協力に心より感謝申し上げます。

訃報

次の方が逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

- 池本 長司 様（昭和五十四年卒） 令和六年六月二十二日 逝去
- 金森 久幸 様（昭和四十八年卒） 令和六年八月八日 逝去
- 永野 隆夫 様（昭和四十年卒） 令和六年十二月二十四日 逝去
- 藤井 尚子 様（昭和四十年卒） 令和七年三月二十六日 逝去
- 山本 敏博 様（昭和四十二年卒） 令和七年四月十四日 逝去
- 山下 和夫 様（昭和五十六年卒） 令和七年五月十三日 逝去

会報担当

- 委員長 佐藤 秀行（平成20年卒） 理事 薬学部 薬剤学分野
- 委員 浅井 知浩（平成9年卒） 理事 薬学部 医薬生命化学分野
- 委員 伊藤 由彦（平成14年卒） 理事 薬学部 薬食研究推進センター
- 委員 内田 信也（平成5年卒） 理事 薬学部 実践薬学分野
- 委員 賀川 義之（昭和58年卒） 顧問 静岡県立大学副学長
- 委員 米澤 正（平成14年卒） 理事 薬学部 医薬生命化学分野
- 委員 大木 明代（昭和62年卒） 理事
- 委員 安倍 道治（昭和46年卒） 代表理事・会長

静岡学友会報 第93号 令和七年十月二十四日発行

〒422-8526 静岡市駿河区谷田五二一
 発行所 一般社団法人静岡薬学友会
 TEL 〇五四―二六五―八七六三
 FAX 〇五四―二六五―八七六九
 メールアドレス shizuyak@u-shizuoka-ken.ac.jp
 ホームページアドレス http://shizuyaku.jp

正会員の皆様へ 会費納入のお願い

昨年度より振込用紙の同封ができなくなりました。学友会 web サイトからのクレジットカード決済をお願いいたします。また、11月末日時点で未納入の方に、従来通りの振込用紙を郵送させていただきます。是非、クレジットカードでの会費納入をお願いいたします。

一般社団法人静薬学友会の運営は皆様の貴重な年会費で賄っております。具体的には、静岡県立大学薬学部の教育研究に対する支援事業、会員の住所管理や HP の運営、生涯研修の実施、会報発行、地区同窓会活動への支援など、多岐にわたる同窓会活動に使用させていただいております。しかしながら、近年納入率が 20% 台にとどまっており、法人といたしましては今後一層事業の拡大を図るためにも、皆様のさらなるご理解とご協力をお願いする次第です。本部としましては、毎年の納付手続きが不要な 10 年会費 や 終身会費 の納入をお勧めいたします。また、寄付金(一般)につきましても、金額の多少にかかわらず、謹んでお受けいたしますので、ご意志のある方は静薬学友会事務局までご連絡下さい。

(問い合わせ先 静薬学友会 事務局 電話 054-265-8763、Eメール shizuyak@u-shizuoka-ken.ac.jp)

【会費の納入方法】

1. クレジットカード決済

静薬学友会ホームページ (<http://shizuyaku.jp>) の「マイページ」(会費支払・各種お申込み) から納入していただけます。

2. 郵便局から振込用紙を利用して納入

振込用紙 (別途郵送) にて、郵便局窓口および郵便 A T M から納入していただけます。

※10 年会費および終身会費は、振込金額を二重線で訂正することにより郵便局窓口にて納入していただけます。

3. コンビニエンスストアから振込用紙を利用して納入 (納入期限 令和 8 年 3 月 31 日)

振込用紙 (別途郵送) にて、コンビニエンスストアから年会費を納入していただけます。

4. モバイル決済 (納入期限 令和 8 年 3 月 31 日)

振込用紙 (別途郵送) に印字されたバーコードおよび QR コードにて、年会費を納入していただけます。

		会費の種類		
		年会費 (2,000 円)	10 年会費 (20,000 円)	終身会費 (50,000 円)
納 入 方 法	1. クレジットカード決済	○	○	○
	2. 郵便局	○	○	○
	3. コンビニエンスストア	○	×	×
	4. モバイル決済	○	×	×

🎀ご卒業おめでとうございます🎀
令和6年度 卒業生会費納入者一覧（敬称略）

上原 星輝子（10年会費）
立松 蓮（10年会費）
宮城 壮裕（10年会費）
青木 駿典
青木 義光
秋田 直杜
安達 大貴
阿部 雅也
阿部 湧介
天野 晴貴
新井 駿
新船 怜
飯岡 真吾
池内 由紀乃
生駒 和希
稲井 恭子
井上 美穂
今村 美優菜
色川 雄大
岩瀬 千晴
岩田 奈々
岩鶴 果奈
内田 勝太郎
大久保 直耕
大瀧 晃一
大野 研
岡部 磨幸
岡村 悠真
尾熊 貴之
小尾 淳貴
片山 智徳
加藤 光貴
狩野 泰斗
加納 ももこ
河合 佑里香

川上 まどか
吉川 智貴
串原 忠
小寺 聡史朗
小林 彩音
小林 和磨
小松 南音
小山 和
沙 沛瀚
齋藤 海斗
坂野 桜子
佐藤 彩乃
佐藤 慶次郎
佐藤 理絵
佐野 淳哉
篠原 佑奈
柴田 悠奈
神保 陽菜
鈴木 彩音
鈴木 海羽
須藤 優香
炭本 凌我
園部 桂也
高取 時彦
高橋 寧音
高橋 秀友
田島 和明
田中 和洋
谷井 勇斗
土田 悠貴
寺嶋 七海
富田 佑太郎
富田 裕也
中林 千華
中村 聡汰

中村 貴佳
中山 雄太郎
鍋倉 結衣
成道 豊
西山 由真
新田 千織
羽川 菜摘
簀 祥太
服部 希海
原川 ゆう
平田 昂嗣
廣川 遼
深澤 花菜
福満 早紀
藤井 萌功
藤本 清紘
細島 大輝
前田 良規
牧田 すずか
増田 歩野
増田 高志
増本 紘輝
松尾 佳倭
松本 歩
眞鍋 智弘
宮木 梨沙
武藤 花奈
村瀬 啓輔
村田 祐介
山岸 亮平
山崎 颯斗
湯本 龍治
若林 佳輝
渡邊 翠
渡辺 雄太

※卒業生の皆様に頂いた会費は、令和7年度の会費に充当させていただきます。



	狩野 孝裕	竹内 颯	山本 みずほ
	櫻井 七海	西島 佑香	吉田 圭輝
終身	関野 智行	山下 晶朱	(修士) LUU HONG QUY
終身	沼子 将大	令和 6 (2024) 年卒	渡辺 あゆみ
平成 31	(2019) 年卒	(修士) 青木 謙汰	
	市川 守	青木 莊賢	
	江間 千裕	浅川 真与	
	大岡 央	荒井 唯花	
終身	梶 萌	飯塚 千晶	
	近藤 里香	生川 誉紹	
	酒徳 航平	石塚 碧	
	佐々木 孝彰	石間 彩花	
	谷 和雅	伊藤 夕	
終身	平井 奈々	岩下 賢士郎	
10 年	宮城 壮裕	岩清水 苑夏	
令和 2	(2020) 年卒	岩野 柚奈	
	尾形 勇二	煤野 幸人	
	折笠 文哉	浦島 瑞希	
(博士)	木村 爵	(修士) 尾内 杏優	
	倉嶋 誉	終身 太田 和希	
	進藤 大地	大塚 瑞穂	
終身	芹澤 環	大友 夏歩	
	田村 公太郎	大橋 葵	
	知念 莊利	岡崎 董	
終身	中川 篤毅	小笠原 由佳	
終身	中村 拓哉	岡田 真由子	
	中村 洸友	終身 皆藤 駿之介	
	西村 拓馬	影山 依央	
(博士)	平澤 互	加地 憲武	
	松下 拓磨	鎌子 大輔	
終身	森 結季子	木村 翔太	
令和 3	(2021) 年卒	久野 絢菜	
	石川 雄	終身 小菅 友大	
10 年	上原 星輝子	小長谷 皇文	
終身	菊池 理保子	小林 紗也	
	日下 敦貴	酒井 汰知	
	小原 遼真	佐藤 克生	
	高瀬 太一	終身 (博士) 佐藤 拓海	
終身	待寺 りさ子	柴田 涼吾	
	丸橋 春日	菅 祐生	
令和 4	(2022) 年卒	終身 菅原 彩加	
終身 (博士)	荒木 利博	杉山 凜	
	五十嵐 千乃	鈴木 詞也	
	井上 侑樹	須磨 佳史	
	内田 雅哉	高橋 沙也加	
	岡本 卓巳	武田 尚久	
	長内 楓	田城 真帆	
	兼房 千尋	田中 雄也	
	木野 秀亮	田邊 祥太	
	小林 直央	塚部 凌輔	
	崎元 耕祐	殿岡 邦香	
	佐々木 貴章	永井 拓実	
	杉原 萌奈未	中嶋 直樹	
	説田 紘子	永田 淳	
	高橋 柚子	長田 千尋	
	田中 惇	中野 正也	
	塚本 文汰	中村 俊太	
	中尾 初音	(修士) 中村 竜之介	
終身	永岡 菜	野間口 財	
	中村 優佑	馬場 遼之介	
	萩原 佑哉	林 寧月	
	長谷川 棕司	平子 裕太	
	原口 卓巳	福田 彩水	
	原田 隼輔	星野 尚也	
	日比 千尋	細江 奈央	
	平田 真也	蒔田 篤則	
	増井 一樹	松下 愛実	
	松林 志歩	松下 僚成	
10 年 (博士)	森谷 樹	真野 結奈	
	山田 悟子	水野 葵	
(博士)	横山 英明	宮崎 拓海	
	渡邊 慧	茂木 飛佑馬	
令和 5	(2023) 年卒	望月 友菜	
	青木 耀平	森岡 希保	
	青島 桜子	森島 安美	
	内上 聖奈	森野 純鈴	
	大村 奈央	藪内 雅人	
	片桐 宇大	矢部 大貴	
	狩野 蘭	山下 ほのか	
	坂井 瑞希	山根 早紀子	
	高井 秀通	山本 高大	

	田村 りつ子		服部 久美子		篠塚 和正	10年	瓦谷 秀治		篠塚 朋子		杉村 壮一
	寺田 佳織	終身	久江 信雄		清水 明	10年	木下 俊也	(修士)	白瀧 美智子		田畑 尚子
	永野 明美		平川 清		杉山 和美		栗田 祐子		杉井 邦好		千葉 敏郁
	中村 美津夫		深江 志津子		関根 英市		桑名 肇子	終身	鈴木 みどり	10年	塚田 秀夫
	羽場 昇	終身	洲上 賢二郎		芹澤 重男		小出 弓枝	終身	高橋 俊博		永田 実
	広瀬 信長		増田 美保子		芹澤 房子	10年	坂本 勢津子		谷 重喜		名倉 百合子
	堀川 隆道		松島 須美		高橋 千恵子		佐藤 和彦		辻 由紀子		古橋 美佳子
10年	真野 由里子	終身	三上 栄一		武田 初美		篠原 宏治		津田 弘太郎		松浦 智子
	望月 美枝		宮 三保		田村 敬子		竹内 里美		内藤 弘		松永 正之
	茂籠 英晴		山田 玲子		近森 由美	10年	田本 訓子		内藤 縁		松本 正敏
	柳川 英幸		山西 敏夫		千葉 和美		千葉 良之		西浦 伊公子		美濃部 淳子
終身	矢野 千恵		山本 豊		千葉 直子	終身	寺田 美智子		橋爪 隆江		諸田 和子
昭和48	(1973) 年卒		渡辺 和樹		辻屋 正弘		道尻 富博		速水 喜朗		諸田 隆
	安藤 知世		渡辺 ちづ子	10年	内藤 睦子		久嶋 道広		深尾 幸保		山口 典子
10年	伊藤 久男		綿引 喜志郎		中尾 博敏		福沢 知子	終身	福田 幸明		吉田 由利恵
	牛川 務	昭和50	(1975) 年卒		中林 啓子		藤井 きょうこ		牧野 法子	昭和58	(1983) 年卒
終身	大井 利夫		浅場 知恵子		野呂 典弘		藤井 裕子	10年	山下 瑞江		安間 始
	大橋 洋次		安積 昌信		服部 隆夫		堀江 久美子		山田 雅和	終身	石川 日出美
終身	大村 洋一		網蔵 雄三		服部 訓子		前田 典子	10年	山田 昌樹		石原 夕美
	興津 明男		新井 昌彦		牧田 寿男		松橋 直美		結川 宏子		宇田 順子
	加藤 てい子		石原 弘子		松本 順子		三谷 淳子	終身	渡辺 文孝		小川 恵
	亀山 直子	10年	井戸 康子	終身	望月 雅子		森 茂雄	昭和56	(1981) 年卒	終身	賀川 義之
10年	川原 利春		伊東 善平		百瀬 佳寿子		森 美真子		西山 欣三	終身	加藤 善久
終身	北村 正孝		稲葉 良生		八木 怜子		山本 啓二		安達 みどり		栗原 美也子
	網村 厚幸		大塩 雪江		米山 美鈴	昭和54	(1979) 年卒		池ヶ谷 進	終身	鹿野 昇
	斉藤 喜孝		金森 麗子	10年	涌澤 伸哉		在原 早苗	10年	石田 さとみ	終身	高橋 秀明
	酒井 博		川口 順子	終身	和岡 まり子		在原 登		石岡 街子	終身	塚本 理史
	佐合 徳穂		河口 進次	昭和52	(1977) 年卒		安藤 公一	10年	岩原 邦宏		那須田 好男
10年	佐藤 英二		川島 順市		青木 登		池田 潔	10年	植松 和子	終身	南部 佳代子
	柴田 光子		北内 未子		磯野 佳世子		池田 しのぶ		内田 玲子		西田 慶子
	清水 史雄		北内 政弘		市橋 純子		池本 長司		勝又 陽子		服部 直美
	清水 みち子	10年	喜納 美枝		伊藤 茂子		市橋 透		河合 陽子		服部 大
	清水 安恵		小出 稔		上田 恵子		海野 一美		北川 日佳子	終身	藤井 史恵
	鈴木 信雄		小杉 智子		猪飼 陽子		掛川 直子	10年	小池 弘子	終身	間中 友季子
	鈴木 幸男		小長井 晴美	10年	遠藤 哲也		加藤 泉	10年	近藤 明子	終身	本島 玲子
	高井 優		佐倉 有紀	10年	大橋 光代		菊地 勝	10年	(修士) 杉山 裕茂		本山 忠
	多田 文樹		三瓶 由美子		生越 朋子		北村 俊夫	10年	高木 由紀	昭和59	(1984) 年卒
	田中 豊		白鳥 和子		加藤 玲子		木村 美子		高木 玲子	終身	浅野 広志
	中川 久司	(修士)	鈴木 清	10年	神谷 公子		桑原 尚子		高松 美保子		芦川 裕子
	名倉 幸子		鈴木 こづえ		川辺 徳子		坂井 節子		竹中 康晴		石井 勇司
	鍋田 由美子		瀬戸山 亨		熊田 裕子		坂井 俊則		立川 哲也	終身	石川 元章
	西原 京子		高井 容子		古志 和彦		佐々木 敏郎		立川 富子	10年	稲葉 厚弘
	橋本 久美子		立松 克己		合西 清司	10年	高木 隆	終身	辻 善春		井上 泰秀
	服部 幸男		中島 雅子		近藤 良一		高木 邦明		土肥 佳史	終身	海野 敬乃
	馬場 克行		仲田 富枝		坂根 弓子		高林 ふみ代		中根 文重		大石 哲久
	原田 恵子	10年	中村 清治	10年	坂本 達一郎		土田 治之		中村 享	終身	大石 美満
	平林 義雄		西 園栄		佐々木 治		土田 素子		野口 恵子		大木 英嗣
	前田 真悟		野口 祐子		佐藤 京子		長島 延弘		春田 武久		大橋 訓子
	松林 重幸		野中 則孝		三部 千恵子		西岡 真理子	10年	丸山 徹也		川島 拓
	溝口 雅子		服部 知恵子		四方 浩子		服部 宏明		宮腰 弘子		黒澤 豊彦
	宮内 泰代	終身	福田 葉子		柴田 一郎		花村 祥子	終身	本島 久也	終身	越田 晃
	若林 景子		星野 忠男	10年	柴本 浩典		林 真人	10年	山下 和夫	(修士)	小嶋 清一郎
昭和49	(1974) 年卒		槇 裕子		杉山 富士江		平野 玲子		吉田 敏彦	10年	堺谷 研嗣
	石川 慎一		水野 健雄		鈴木 忍		堀田 豊子		渡部 由紀子		阪田 美子
	石川 優子		村越 正典		高橋 由紀子		牧田 智津子	昭和57	(1982) 年卒		佐藤 春美
	石倉 始	終身	望月 雅史		滝口 清子	10年	水島 久美	10年	朝比奈 由和	10年	柴田 隆之
	石原 栄子		脇田 久美子		竹之内 敏弘	10年	水島 教之		有賀 美津子	終身	須賀 正美
	石原 幸子	昭和51	(1976) 年卒		戸塚 順子		三室 佳子		池田 香里		鈴木 文子
	伊藤 聡		赤坂 喜孝		戸塚 実		宮城島 正枝	10年	石原 由美		鈴木 玲子
	宇佐美 ふさ枝		安積 宏美		中里 直美		村上 博子		石間 強		高橋 浩二
	宇野 勝次		井川 悦男		中島 美智子		望月 都		市川 晶子	10年	田中 喜久夫
	大石 稔		石井 康子		西村 利恵		森川 高		今井 信行	10年	長尾 康博
	小野 ゆみ子	10年	石原 恵子		沼澤 真理子		山崎 芳枝		岩崎 順子		野中 稔
	北川 俊朗		伊藤 あゆみ		橋爪 崇		吉田 静生		岩下 敦子		橋本 佳己
	鬼頭 和子	10年	今井 公江		波多野 力		吉田 敬		上田 春美		平野 桂子
10年	河野 洋子		今井 譲		藤浦 秀人	終身	吉田 昌史	(博士)	大軽 靖彦		深澤 由紀子
	駒木 玲子	終身	海野 けい子	10年	牧野 栄一	昭和55	(1980) 年卒		大島 勝		古川 真郎
	佐藤 重一		小野 公江		丸山 久美子		石井 要成		小栗 由弥子	終身	堀之内 晴美
	左中 ナチ子		加藤 珠江		水嶋 由利		石川 和正	10年	乙田 ゆかり		堀之内 英樹
	篠田 礼子		神谷 昌子		村橋 桂子		梅垣 敬三	終身	角田 真澄		前沢 正和
	杉山 清		川上 典子		村橋 均	10年	老田 明子	10年	勝山 善彦		前田 浩
	鈴木 晶代		川村 喜治	終身	柳原 幸子		岡田 宜彦		加藤 伸二		牟礼 孝貴
	鈴木 隆		北島 裕子	終身	山本 藤輔	昭和53	(1978) 年卒	終身	門脇 真		森信 智子
	鈴木 達始		玄 寿美	昭和53	(1978) 年卒		金森 久美子	終身	河本 光宏		矢島 ゆか
	竹内 和代		小島 克子		青木 恵子	10年	川嶋 宏美	終身	桐原 市博	10年	山本 知代子
	立松 瑞子		小平 郁子		安達 三郎	終身	後藤 利宏		倉澤 由美子		山本 通代
	仲野 慶子		小林 進		井浦 教子	終身	後藤 美重子	終身	小久保 宏恭		吉田 千佳代
	西澤 雅彦		五味 和代	10年	石岡 政子	10年	小林 才世子	10年	青藤 智佐子	10年	和田 久仁恵
	西園 恵郎		斎藤 由美子		岩本 明彦		榊原 幹生		下田 宗人	昭和60	(1985) 年卒
終身	新田 智道		酒井 裕子		岡田 澄子		佐々木 洋子		赤池 典子		赤池 智子
	法月 壽美子		相良 美企子		岡野 順子		佐藤 和裕		杉村 敦子	10年	秋山 晋一郎

令和6年度 会費納入者一覧 (敬称略)

終身：終身会費納入者 10年：10年会費納入者
(修士)：修士修了年 (博士)：博士修了年

昭和21 (1946) 年卒	溝口 しづ	笹田 庸子	谷澤 久之	北原 功久	法月 正善
	児玉 光子	佐藤 朝子	手塚 勇	北村 久代	廣田 勇夫
昭和23 (1948) 年卒	山口 修	鈴木 智彦	中 寿美	木俣 六司	藤城 玲子
	小竹 京子	鈴木 光子	中川 いく子	向後 勝成	堀内 淳司
昭和24 (1949) 年卒	山本 昭野	鈴木 美穂子	長沢 淑子	斎藤 正子	増井 立美
	吉田 薫子	大長 美穂子	中島 欣吾	佐藤 美代子	増田 恒夫
昭和25 (1950) 年卒	昭和35 (1960) 年卒	平良 武男	平野 正幸	鈴木 登志子	増田 義典
	10年	千葉 隆子	堀井 貞佑	鈴木 ふみ子	望月 和子
	10年	西田 幹夫	本多 洋子	高橋 久美子	望月 利郎
	10年	宇都 宗長	増田 吉雄	高山 修一	山崎 正敏
	10年	宇都 仁子	松浦 美恵子	谷口 邦子	山下 健二郎
	10年	遠藤 伸江	宮本 靖夫	辻 静子	山本 育由
	10年	大木 英也	村上 みね子	中 公子	藁科 利夫
	10年	奥村 太一	村上 雄厚	永野 博正	昭和46 (1971) 年卒
	10年	尾崎 克子	村越 信義	仁科 美代子	青木 行雄
	10年	角田 藤子	山口 正代	野沢 千鶴子	終身
	10年	久保田 浩子	山下 紘子	深沢 伸之	終身
	10年	久保田 光秋	横倉 輝男	藤井 武教	井出 知子
	10年	小林 弘子	堀川 武	堀川 武	10年
	10年	小林 富二男	阿部 千恵子	本間 文夫	今村 政晴
	10年	杉山 豊美	池田 洋子	前田 文子	10年
	10年	鈴木 澄雄	石川 いく子	丸山 博三	海野 忠市
	10年	鈴木 千枝	稲垣 忠	美崎 英生	小川 光子
	10年	谷戸 恵子	大場 浩	美崎 陽子	10年
	10年	百々 紗世子	片岡 睦	村松 鐸治	小木曾 俊夫
	10年	正木 ミツ工	木下 孝夫	森下 隆子	桶川 修
	10年	増田 令子	山上 昌臣	山上 寿子	神谷 庸
	10年	中嶋 イチ子	齊藤 慎一	山本 武司	米苗 恵子
	10年	鍋谷 勤	清水 義允	昭和44 (1969) 年卒	久保田 美恵子
	10年	林 正康	鈴木 宣子	朝比奈 都志子	熊谷 猛
	10年	半場 道子	鈴木 義則	安藤 亮司	熊谷 房子
	10年	東 利子	高橋 郁子	岩城 節子	近藤 隆
	10年	星 由利子	田辺 智弘	植田 悦子	坂上 むつみ
	10年	松永 義明	谷澤 康子	植田 悦子	澁谷 育栄
	10年	溝口 謙吾	高橋 幸子	浮島 美之	瀬戸 きみ子
	10年	山下 恒子	手塚 雅勝	大石 悦子	高橋 紀子
	10年	山田 とし子	成田 愈尚	奥川 徹	田中 隆子
	10年	昭和36 (1961) 年卒	糠谷 東雄	桐谷 静江	土山 ふみ
	10年	朝木 はる子	野田 弘子	佐藤 しづ子	長倉 章夫
	10年	井上 隆子	服部 徳子	佐藤 正基	中村 芳正
	10年	大塚 信子	古木 昭夫	鈴木 勝雄	野路 久仁子
	10年	岡 鐵雄	味知 恵子	武田 隆幸	原口 ふじ江
	10年	小堤 公子	森田 俊夫	手塚 利恵	廣田 孝之
	10年	金井 修躬	山崎 悦孝	東郷 笑美子	堀川 正
	10年	河谷 浩子	渡邊 能子	中島 勝明	前田 勝代
	10年	木下 幸子	昭和42 (1967) 年卒	中山 和久	前田 利男
	10年	佐藤 美也子	西上 明子	馬場 宏行	前田 稔
	10年	四條 英子	内田 隆	藤井 真	10年
	10年	淡谷 けい子	内田 文代	水島 きく江	松井 静雄
	10年	高木 操	興津 馨	溝上 俊之	松島 三重子
	10年	中川 豊子	奥村 令子	村松 郁延	水野 茂
	10年	仲道 述夫	小沢 敬子	望月 笥子	味知 博泰
	10年	中村 阿丈	開発 雅子	森本 正信	村岡 孝子
	10年	中村 孝二	柿谷 芳宏	若尾 直司	望月 智子
	10年	野口 勝巳	河原畑 二郎	昭和45 (1970) 年卒	山城 實子
	10年	福島 俊郎	神田 佳和	青木 興治	山田 静雄
	10年	古田 尚平	左納 通正	青木 美佐子	終身
	10年	堀井 大治郎	鈴木 康夫	市尾 義昌	昭和47 (1972) 年卒
	10年	丸山 晃	辻 邦郎	伊藤 徳雄	相坂 力
	10年	水谷 義美	西澤 伸行	稲葉 藤子	秋山 岳士
	10年	山崎 宏子	馬場 諄直	内神 啓子	阿部 由美子
	10年	山崎 雅江	本田 貴十郎	浦野 治明	石川 雅章
	10年	山下 敏夫	三浦 勇二	小楠 和彦	宇野 恵美子
	10年	山田 富彦	宮本 正紀	尾版 芳孝	大場 明男
	10年	山本 擴	八畝 恭子	長谷川 和裕	大庭 茂樹
	10年	渡辺 亜沙子	昭和40 (1965) 年卒	折田 和恵	金田 恵美子
	10年	飯島 千穂子	秋山 喜彦	川岡 達彦	川田 礼子
	10年	逸見 絹代	足立 一彦	岸本 美子	河村 博
	10年	伊藤 典子	岩村 晋	金月 一夫	神戸 研一
	10年	伊藤 玲子	大塚 坦造	熊谷 直人	北村 洋子
	10年	大嶽 英子	奥村 淑恵	桑山 雅枝	10年
	終身	小野田 従子	河野 悦子	後藤 武茂	熊谷 ますみ
	終身	神谷 大三郎	五島 綾子	後藤 守男	小瀬 俊裕
	終身	酒井 光江	小西 みゆき	小林 政幸	道雄
	終身	柴田 幸子	齋下 光宏	佐野 満昭	坂本 忠勝
	終身	長倉 久美子	佐合 武	柴田 揚子	坂元 洋一郎
	終身		志村 洋子	清水 昭夫	提坂 雅昭
	終身		鈴木 一市	清家 功	佐塚 純子
	終身		高橋 圭子	高山 雅子	芝 和子
	終身		近藤 静男	仲谷 博明	柴 善三郎
	終身			新里 光子	10年
	終身			野田 幸男	鈴木 典子
	終身				高橋 俊二
	終身				田村 義男

静岡市の「在宅薬剤師」を目指すなら
創業47年のすずらん薬局



すずらん薬局 静岡

検索

インスタ

会社 HP

 すずらん薬局

SUZURAN PHARMACY



わかくさ薬局グループ

「良き仕事は良き社員から、
良き社員は良き会社から」

これを信念に、
わかくさ薬局グループでは社員教育に力を注いでいます。

それは職場だけにとどまらず、経験を活かし、己を高め、
自己研鑽が楽しくなるような場の提供をしています。

いつでも、高きを仰ぐ気持ちを忘れずに。
日々を過ごすことに誇りを持ち、実践できるように。

わかくさ薬局グループ
代表 高橋 千恵子

つづきはWebで。
<http://www.stcy.co.jp>



令和7年度薬学生涯研修講座

主催：一般社団法人静薬学友会・静岡県立大学薬学部

「急増するサルコペニア、 フレイルの発生要因とその対策」

参加費無料
会員以外でも
ご参加いただけます

2026年2月22日(日)
13:00～16:45

静岡県立大学小講堂・および zoom 配信

【講演】

1. 「運動や不活動に対する骨格筋適応の分子メカニズムとサルコペニア」
講師：静岡県立大学食品栄養科学部教授 三浦 進司
2. 「その薬物療法は本当に生活のことが考えられていると思いますか？
—元気な高齢者を増やすための「リハ栄養・リハ薬剤」—
講師：浅ノ川総合病院薬剤部 東 敬一郎
3. 「まちとつながる薬局のカたち
～サクラノキプロジェクトを通じた薬剤師の社会的役割～」
講師：株式会社やまうち薬局 経営企画室 / 在宅部門 吉田 萌生
4. 「フレイル・サルコペアの進行を防ぐために
—高齢者の状態に応じた運動支援の工夫—
講師：聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部
理学療法学科准教授 俵 祐一

【参加方法】

静薬学友会ホームページよりお申込みください



(<http://shizuyaku.jp>)

日本薬剤師研修センター研修認定単位 2 単位交付

令和7年度薬学生涯研修講座運営委員会 委員長 若林敬二

問い合わせ・参加申込先：一般社団法人静薬学友会

〒422-8526 静岡県静岡市駿河区谷田 52-1

TEL(054) 265-8763 FAX(054) 265-8769

Email:shizuyak@u-shizuoka-ken.ac.jp